



編集発行者
千葉大学医学部
るのほな同窓会報編集部
〒260-8670 千葉市中央区亥鼻1-8-1
千葉大学医学部内
るのほな同窓会
電話 (043) 202-3750
FAX (043) 202-3753
e-mail : info@inohana.jp
HP : http://www.inohana.jp/

千葉大学医学部同窓会報 第152号 題字 故 鈴木五郎 (大11卒 元るのほな同窓会長)

平成21年度 るのほな同窓会総会開催

平成21年度るのほな同窓会総会が、平成21年6月20日(土)午後4時より、銀座アスタールお茶の水賓館において開催された。

吉原俊雄理事の司会により、済陽高穂副会長から開会の辞が述べられた。会議に先立って、物故者84名の冥福を祈り黙祷を捧げた。伊藤晴夫会長の挨拶に続いて、各議事について瀧口正樹理事、白澤浩理事、田邊政裕理事から説明があり審議された(議事要旨は21~22面に掲載)。総会に引き続き、平成21年度るのほな同窓会賞の表彰式(関連記事は6~7面に掲載)と中谷晴昭千葉大学医学部研究院長の記念講演が行われた。



平成21年度全国るのほな会総会



会長再任ご挨拶

るのほな同窓会長 伊藤晴夫(昭39)



この度、伝統ある千葉大学るのほな同窓会の会長を再びお引き受けするにあたり、微力ではありますが、全力で努力していきたいと考えています。幸い副会長には大井利夫先生、済陽高穂先生、寺澤捷年先生という錚々たる先生方が留任されており、各支部長、常任理事・理事をはじめ会員各位と協力してるのほな同窓会をさらに発展させていきたいと思っております。本同窓会は日本屈指の歴史と規模を誇り、臨床、基礎の各分野において傑出した人材を輩出してきました。ここに改めて先達の熱意に対して敬意を表

祝 叙 勲

平成21年 春の叙勲

旭日双光章

松浦 徳久(昭27)

します。

本会の目的は渡辺武前会長も改めて強調された如く、第一は会員の親睦と医道の高揚であり、第二には医学部の支援であります。会員の親睦・交流の場として、るのほな同窓会報は大きな役割を果たしております。近年、この会報の充実が著しく、現在さらにホームページの活性化を行っております。ITに慣れ親しんでいる若い会員の積極的な参加をお願い致します。これにより、以前から言われておりました若い人の同窓会離れを防げるのではなかろうかと期待しております。大学が法人化して財政的にも苦しいときにあたり、るのほな同窓会は医学部との協調の下に応援をさらに充実させたいと思っております。本年がまさにその年にあたる135周年の記念事業では、

るのほな同窓会 への寄附

唐澤祥人氏(昭43) 十万円

ありがとうございました。

寄稿依頼など記念誌の出版準備も始まりました。新るのほな同窓会館設立のための募金は、戦後最悪の経済不況による逆風下ですが、寺澤捷年副会長をはじめとする皆様が奮迅のご努力をされているところです。新るのほな同窓会館は、同窓会にとりましては勿論のこと、特に学生のために極めて有意義なことと思っております。記念事業会の建物・設備等整備委員会での検討では、第一期工事として、現在の同窓会館の機能に同窓会事務室等を附設した会館の設立が現実味を帯びてきております。なお多くの課題が待ち受けておりますが、会員諸兄弟のさらなるご理解・ご協力を重ねてお願い申し上げます。

以上、簡単ですが、再任のご挨拶とさせていただきます。

紙面紹介

総会開催	1	追悼文	16
記念講演	2	著書紹介	17
就任挨拶	3	会誌紹介	18
同窓会賞受賞	6	表敬訪問	20
学内情報	7	雑文雑談	20
学生教育	8	議事要旨	21
研修プログラム	9	会館設立	22
各地るのほな会	10	人事異動	29
クラス会	11	編集後記	30
	12		
	13		
	15		

第14回(2009年度) るのほな同窓会賞 受賞者決定

功労賞 護(東京都医療公社、多摩がん検診センター顧問、昭31)

「早期消化管(食道・胃・大腸)がんの診断とその自然史」

学術賞

木野 智重(米国国立衛生研究所、生殖/内分泌研究プログラム小児内分泌セクションアクティヴヘッダー、昭60)

「グルココルチコイドホルモン作用と各種病態における意義」

清水 直樹(君津中央病院救命救急センター、平2)

「わが国における小児救命集中治療環境の確立と小児蘇生科学の組織化」

記念講演

千葉大学の医学の現状と展望

千葉大学医学研究院長 中谷 晴 昭



過去5年間で千葉大学医学部に最も大きな影響を与えたものは、新臨床研修制度の導入と国立大学の法人化です。これら二つの出来事はどちらも平成16年度に起きたものであり、千葉大学を含めた国立大学医学部に非常に大きな影響を及ぼしました。臨床研修必修化となつて、医師の大学離れが顕著となりました。千葉大学医学部もその例外ではなく、従来は卒業生の80%近くが本学に残り、入局していたわけですが、この制度が導入されてからは、本学の卒業生は30-40%程度しか大学に残らなくなりま

した。その結果大病院・医学部に在籍する医師数、そして千葉県の医師数が減少することになってしまったのです。もう一つのインパクトは国立大学の法人化です。法人化以降文部科学省から支給される運営交付金は、毎年効率化係数が掛けられて、1%ずつ減額されます。それ以上に影響が大きかったのは、平成18年閣議決定に基づく公務員の定員削減計画に準じた国立大学法人における教員定数の削減です。千葉大学医学研究院では過去4年間で9名の教員を削減しなければならなかったわけですが、

このままの教員削減を続けるとすれば、今後6年で医学研究院において17人の教員定員削減をしなければなりません。これは、大変な教員削減数であり、5つぐらゐの基礎系教室あるいは2つ程度の臨床教室の教員数に相当するものです。もし、これを計画通り実行すれば教育・研究・診療を現在のレベルで維持できなくなると思われ、決してそのまま受け入れることは出来ません。医学部学生定員が増加している中でこの様な定員削減を実行すれば、医学教育および大病院における診療は破綻することは目に見えています。政府が全国医学部における教員削減方針を撤回するか、あるいは千葉大学として定員削減をどのように実行していくかについて全学的に議論して行かなければならない時期となっております。

このような厳しい環境の中にありながら、現在医学研究院、病院に在籍する教員は教育・研究・診療で全力を尽くしております。昨年、第一期中期目標期間の法人評価(暫定評価)が行われました。千葉大学医学部の研究評価で研究活動、研究成果共に「期待される水準を上回る」という評価でありましたし、教育評価においても実施体制は「期待される水準を上回る」であり、教員一丸となつてこの中期目標期間の努力は認められたと思っております。学部教育では、田辺政裕教授が中心となり「診断能力向上をめざす臨床医学教育の取り組み」「学習成果基盤型教育による医学教育の実質化」等の教育予算を獲得し、着実に教育改革を進めており、その教育成果は昨年度本学卒業生の医師国家試験合格률100%という結果として現れました。大学院教育では薬学研究院と一緒に「世界規模の知見・臨床研究を担う医療人育成」というプログラムを進めています。また、丹沢秀樹教授を中心に千葉大学が主管校となつて筑波大学や埼玉医科大学等と一緒に、がんプロフェッショナル養成プラン「関東広域多職種がん専門家チーム養成拠点」を遂行し、がん治療の専門家の育成に当たっております。また、最も大きなプロジェクトとしては、医学領域におきまして中山俊憲教授をリーダーとしたグローバルCOEプログラム「免疫システム統合治療学の国際教育研究拠点」が昨年度採択され、2

回の国際シンポジウム開催を含め、積極的に展開されております。医学系のグローバルCOEプログラムは競争が激しく、全国の大が威信をかけて、採択に向けて努力しましたが、今回は全国で14件しか採択されず、旧帝国大学でも採択されない大学も出る程でした。リーダーの中山教授、前医学研究院長の徳久剛史教授が並々ならぬ努力をして、採択までこぎつけたことは非常にすばらしい事であり、千葉大学医学部の大きな名誉と考えられます。千葉大学医学部では教育改革も積極的に進めております。学士編入学制度を開始して、10年が経過いたしました。本学に毎年入学してくる学士編入学生はMD-PhDコースとしていることもあり、研究志向の優秀な学生が入学しております。本学は他大学に比べて成功している部類と思われまます。しかしながら、新臨床研修制度が開始されたため、卒業後研修義務化のため、大学院入学後すぐに休学をしなければならぬこと、3年次編入のため、一般入学生に対しての肉眼解剖等の教育の開始が遅れること等の弊害も出てい

とも事実です。来年度から、卒業後の臨床研修制度の部分的改革も行われます。それに従つて、医学部における臨床医学教育の充実化、一般入学生に対する医学専門教育の開始時期の前倒し等を行っていく予定としております。また、本学の学生は極めて能力が高く、日本および世界の医学を研究面でも支えていく人材となつてもらわなければなりません。将来のフィジシャンサイエンティストになつてもらつたため、入学後の早い時期から色々な研究室に出入りして研究を行う「スカラシッププログラム」も開始いたしました。また、徳久前研究院長の時代から、各教室の研究紹介や学生の研究発表会を兼ねたベシククリニカルリサーチカンファレンスを毎年開催しております。この様に、本学学生の研究マインドの育成と共に、卒業後大で活躍してくれることを願つて、様々な試みを行っております。

千葉大学医学部附属病院は河野陽一病院長を中心に将来を見据えて増改築が計画されており、昨年「ひがし棟」が新病棟としてオープンしたのに引き続き、今年度は「みなみ棟」の改築が終了して、続いて「にし棟」の建設が計画されております。現在の外来棟、中央診療施設も5年後には改修される予定となっております。これら建物の増改築ばかりでなく、先端医療を實踐する「未来開拓センター」は既に設置され治療が開始されておりますが、それ以外にがん化学療法、救命救急医療、周産期・小児医療・外来手術の充実化が図られる予定です。この様に、世界水準の大病院を目指した千葉大病院再開発計画が進められております。

医療を取り巻く環境は厳しく、医師不足による地域医療の崩壊から本学にも医学部定員の増加を要求される状況となっております。しかしながら、極めて長い歴史を持つ千葉大学医学部の伝統を大切にしながら、教育・研究・診療でその原点を見失うことなく、人類の健康と福祉に貢献できる有能な医療人・研究者の育成を目標に着実に進んでいきたいと思つております。どうか今後も同窓会の先生方の温かいご支援、ご鞭撻をお願いいたします。

就任挨拶

千葉大学大学院
医学研究院細胞治療学

教授 横手 幸太郎 (昭63)



平成21年5月1日付けで、齋藤康前教授(現千葉大学長)の後任として千葉大学大学院医学研究院細胞治療学(旧内科第二)講座教授を拝命いたしました。

るのほな同窓会会員の皆さまをはじめ多くの方々にご支援賜わり、心より感謝申し上げます。

私は昭和63年に千葉大学医学部を卒業し、吉田尚教授が主宰される第二内科へ入局しました。加齢が人の生理機能や疾病に与える影響に漠然とした興味を抱き、内科学・老年医学の両方を学びたいと考えていました。吉田教授以下、講座の諸先輩がその希望をお認め下さったこと、代表的な遺伝的早老症であるウェルナー症候群を同教室で診療していたことが、入局の

直接契機になりました。第二内科には、内分泌代謝グループのほか免疫アレルギー、血液、消化器の各グループがあり、それぞれ専門的な診療・研究を展開すると同時に、領域を越えて病気を考え、患者を診ることが普通に行われていました。そのような環境に身を置けたことは、私が内科医としての思考を形成していく過程でかけがえのない財産となっています。大学病院での研修を経て、東京老人医療センター(現健康長寿医療センター)では内分泌、神経、循環器、消化器病学を学びました。東大、京大、金沢大、筑波大、高知医大など、当時、全国から集まっていた研修医やリサーチマインドを持つ指導医に多くの刺激を受け、その後も各地で活躍する。同窓生、達との交流が続いています。

大学へ帰局するにあたり、生活習慣病の診療と研究を通じて人類の健康長寿

に貢献することを新たな目標と定め、齋藤講師(当時)が指導される脂質研究室の門を叩きました。内分泌代謝疾患の専門診療を学びながら、最初の基礎研究テーマとして、血管内皮細胞の活性化と単球の接着に取組みました。今では動脈硬化の引き金として常識になっている現象ですが、当時はアッセイ法一つ確立しておらず、森崎信尋先生(昭50)のご指導のもと、日夜海外の文献や培養細胞と格闘していたことを思い出します。

その後、「細胞増殖」という観点から生命現象を考えることを目的に、平成4年に血小板由来増殖因子(PDGF)の同定者であるスウェーデン・ルードウィック癌研究所(Leif Henrik Heldin教授の元へ留学の機会を得ました。PDGFレセプターの新しい自己リン酸化チロシン残基やシグナル分子の同定と機能解析に明け暮れる毎日でしたが、この地においても指導者や同僚に恵まれ、3年半の滞在中にウプサラ大学から博士号を得ることができました。学位審査では、3時間にわたる「opponent(日本での主査)」との質疑応答を通じ

てThesisをdefendし、欧州における科学の伝統を体感すると同時に、研究者として自立する上での自信となりました。同大学では毎年ノーベル賞受賞者による講演が行なわれます。素晴らしいお話の数々を聞きま

したが、これらの経験の中で「臨床の場に身を置いて研究を続けたい」という思いを改めて確認した次第です。平成8年に帰国後は、教授にご就任されていた齋藤先生のもと、森聖二郎先生(昭58)とともに新しい研究室を開設し、以後、増殖因子・サイトカインの分子機能を手がかりとして臨床への還元を目指した糖尿病合併症、動脈硬化、肥満症、早老症の研究に取り組みながら、広く代謝内分泌疾患の診療に従事しています。

千葉大学における過去10年間の教員生活では、数多くの優秀な後輩に恵まれたことがとても印象に残っています。自分にはない能力を有する若者達と出会い、その更なる成長を見る喜びを知っただけでなく、意欲ある多彩な才能が集うことにより組織として大きな力を発揮できる可能性を実感しました。これからの細胞治療学講座においても、メン

バーが健全な競争を展開しながら相互に高め合い、また助け合う環境を整備していきたいと思えます。可能性に限界を作ることなく、心の通った最先端医療の実践、世界と戦うことのできる研究水準、そして次世代をリードする人材の育成を目指して邁進する所存です。そのためにも、一人でも多くの若い方々が、私達の講座/診療科でも学んで下さることを期待しています。

千葉大学医学部では、現在、内科系診療科の再編と発展が重要な課題となっています。私は主に代謝内分泌疾患の診療と研究、そして教育を担当する教授として選任されましたが、同時に血液内科を初めとする旧第二内科系の各診療科が意欲と誇りをもってそれぞれ発展できるよう、微力ながら精一杯ご支援申し上げたいと考えます。その過程を通じて千葉大学医学部の隆盛に貢献し、これまで私を育てて下さった先輩方のご恩に報いたく思っています。るのほな同窓会の皆さまにおかれましては、今後尚一層のご指導・ご鞭撻を賜りますようお願い申し上げます。越谷病

院には泌尿器科教授として昭和42年卒業の安田耕作先生がいっぱいいます。

が、私が来る1年前に定年退職され、現在は私が唯一の千葉大学卒業生です。越谷市は人口30万を数え、近隣の草加、春日部、三郷やさいたま市の東側などを加えると背景人口は100万人はいるものと思われ、今後症例の増加が期待されますし、埼玉るのほな同窓会には多くの千葉大学同窓の先生方がおられますので、いろいろのご指導いただけることと思えます。

私は昭和52年に千葉大学医学部を卒業し、筑波大学で初期訓練を受けました。千葉大学から移られた牧豊

獨協医科大学越谷病院脳神経外科

教授 兵頭 明夫 (昭52)



平成20年5月1日付けで獨協医科大学越谷病院に脳神経外科の主任教授として着任し、既に一年以上が経過いたしました。獨協医科大学(宇都宮近郊)にある獨協医科大学の付属病院のひとつですが、埼玉県越谷市の

東武鉄道新越谷駅、JR武蔵野線南越谷駅のすぐ近くという、極めて便利な場所にあります。獨協医科大学付属病院本院とは遠く離れており、組織的には同じですが、多くの科では人事交流などもなく、全く独自の活動を行っています。通常の大学附属病院スタッフは教育、研究、診療を均等に

行う必要がありますが、獨協医科大学越谷病院は723床の規模をもつかなり臨床に特化した病院です。教育と

教授の下で脳神経外科を専攻し、その後筑波大学で一緒に仕事をした吉井與志彦先生(昭44)が琉球大学の教授として赴任された2年後に、助教授として呼ばれて沖縄に赴任しました。沖縄では9年間を過ごし、そのまま永住するのかもしれないと思っておりましたが、ひょんなことから埼玉県に参ることになった次第です。

既に述べましたように、私は脳神経外科の中でも脳血管障害の治療を専門としています。脳神経外科としては当然のことながら「切つて治す」ことが元々の仕事であり、特に脳動脈瘤(破裂するとくも膜下出血を来す)の入り口を二度と破裂しないようにクリップという道具で止めるクリッピング術を手術の中では多く行っています。一方脳動脈瘤からの出血を予防する方法として、開頭術を必要としない脳血管内治療という方法があり、我が国でもここ10年ほどの間にかなり普及してきました。脳血管内治療とは通常は大腿部の動脈から病気の血管まで、血管の中を通した細い管を通じて治療道具を出し入れして血管の病気を治す方法で、脳以外の病気では心臓の血管の血管内治療

(風船治療、ステント治療)が数も多く、一般によく知られています。もともと血管は体中に張り巡らされており、くも膜下出血の原因となる脳動脈瘤の部分まで細い管を通せば、頭を切らずに治療ができるわけです。最近の技術的な進歩は著しく、頭の血管の病気の部分まで通せる性能の優れた細い管(マイクロカテーテル)や、管を安全に導くための血管の地図を作るDSAと、ラレントゲンの装置、そして病気の部分を治す道具(動脈瘤をつめる柔らかいプラチナコイルなど)を自由に使いこなせるようになっていきます。私はこの脳血管内治療を25年も前から行っており、この領域の中心的な学会である日本脳神経血管内治療学会の2002年度会長を務め、現在も理事、事務局長として活動しています。今では「切る治療」より多くの血管内治療を行っているせいか、むしろ脳神経外科医の間でも私のことを脳血管内治療の専門家と思われてしまっているようです。

私は脳神経外科の教授でありますので、開頭術もできないのに選考されたはずはありませんが、今までの私の手術経験をみますと、開頭術を中心とした脳神経外科手術が約1300件、脳血管内治療は約200件、脳動脈瘤の治療だけを見ると、クリッピング術など開頭術を行って治療する脳神経外科手術が約550件、脳血管内治療が約850件と脳神経外科手術よりも脳血管内治療の方が多くなっているのも事実で、ここ数年は脳動脈瘤の治療に限ってみると、脳神経外科手術よりも脳血管内治療が2~3倍の数に上っています。私はこちらに赴任する前の9年間を沖縄の琉球大学で過ごしました

が、これらの数により脳動脈瘤の脳血管内治療件数では常に全国ベストテンに入る治療経験を維持しておりました。しかし昨年5月に越谷に来て、いきなり多くの症例をこなすことはできません。従って、今後埼玉

ののはな同窓会の先生方をはじめ、ののはな同窓会のご指導をいただいで、再び多くの症例を経験する機会を与えていただければと思います。それでは今後ともどうぞよろしくお願い申し上げます。

幕張キャンパス(衛短)と仁戸名キャンパス(医技大)の2キャンパスの大学としての発足となりました。したがって両キャンパス入り口にはそれぞれ2つの学校の看板がかかっています。リハビリテーション

リハビリテーション)をもち、リハビリテーション学科内に2専攻(理学療法・作業療法)を有します。定員は看護学科が80名、その他の学科・専攻が25名ずつの計180名で学長は山浦晶先生(昭40)です。これまで独立した県の組織であった幕張の千葉県立衛生短期大学(衛短)と仁戸名の千葉県立医療技術大学校(医技大)が再編整

板断裂の要因としての、腱板の変性と肩峰下面の変性の関連についても研究を行っています。日本に帰国後は臨床に従事し、最近では骨粗鬆症に関連する骨折の手術・リハビリテーションを主に仕事をしています。他の先生からみると、専門のはっきりしていない整形外科医のように思われるかもしれませんが、私としては、特定の解剖学的領域のみを専門とするのではなく、「骨」を専門とする整形外科医として、その発生、発育、修復、変性に興味を持って過ごしてまいりました。

オタワ大学(H.K.Ortho)教授の下で、Embryoでの骨・関節の発生や動物実験での骨折の治療について勉強することができました。また同時にOrtho教授のもう一つの専門である肩関節を屍体より摘出し、腱

私の受け持つ学生は、理学療法士・作業療法士を目指す50名が主となっておりますが、学校全体として千葉県の医療界に役立つ人材の育成が主たる役割となっています。第1期生が入学したばかりの状態ですが、すでに解剖学見学実習の件で千葉大学環境生命医学教室にお世話になることが決定しており、いずれ同窓の先生方のいらつしやる施設に学生が実習で訪れ、さらには就職もお願いすることになるかと思いますが、学生ともども今後ともよろしくお願い申し上げます。

私(昭55)は千葉大学理学部を卒業し、当時のののはな同窓会の先輩でいらつしやる小幡裕先生(昭28)が主任教授を務めていらした東京女子医科大学消化器病センター内科に臨床研修医として入局しました。消化器病センターの多くのののはな同窓会員にご指導を得て貴重な臨床経験を積むことができましたが、昭和57年に厚生省(当時)に医



千葉県立保健医療大学
リハビリテーション学科 理学療法専攻
教授 雄賀多 聡 (昭55)



東京女子医科大学医学部
国際環境・熱帯医学講座
主任教授 遠藤 弘 良 (昭55)

学生の時より関心のあった医系技官として転職しました。

本年7月に退官するまで27年余行政官としての生活を送り、この間、本省では医学教育、EBM、IT化、健康増進、感染症対策、国際保健等の行政に従事しました。またWHO、UNAIDS、岡山県、国立保健医療科学院、国立国際医療センターにも出向しました。とりわけ国際関係ならびに感染症関係の仕事（政策立案、教育、研究）に長い間携わる機会に恵まれ、これが縁で現職に就くこととなりました。



船橋市立医療センター

病院長 高原善治(昭49)

当院は本年4月1日より経営改革の一環として地方公営企業法の一部適応から全部適応に移行しました。

その後、心臓血管外科の道に進み国立循環器病センター、千葉県循環器病センターの前身である県立鶴舞病院に勤務し、平成3年には中島伸之教授の第一外科学・心血管グループに入局しました。助手、講師を務めた後、平成6年に船橋市立医療センター心臓血管外科の新設に伴って部長として赴任し、平成19年からは診療局長として勤務しております。

当院は昭和58年に内科、小児科、外科、整形外科、脳神経外科、泌尿器科、産婦人科、眼科および耳鼻咽喉科の9科からなる206床の船橋市立の総合病院として発足しました。その後、平成6年には42床を増床し、救命救急センターを設立、循環器内科、心臓血管外科、呼吸器外科、放射線科、麻酔科を増設しました。平成8年には皮膚科、形成外科、精神科を増設し、本年4月からは内科から消化器内科、呼吸器内科、代謝内科、緩和ケア内科を独立させ、また従来あった脳血管疾患等リハビリ、運動器リハビリ、摂食機能療法部門に加えて心大血管リハビリを新設、これらをまとめてリハビリテーション科とし、診療の充実

を図っております。さらに来年1月には緩和病棟20床を増設オープンする予定になっております。現在、千葉大学からは副院長・渡辺義二(昭45)、手術室部長・唐司則之(昭47)、呼吸器内科部長・多田弘士(信州大・昭54)、循環器内科部長・稲垣雅行(昭55)、小児科部長・丹羽淳子(昭55)、泌尿器科部長・佐藤信夫(昭55)、代謝内科部長・岩岡秀明(昭56)、外科部長・丸山尚嗣(昭57)、臨床研修部長・福澤茂(昭57)、整形外科部長・三村雅也(昭58)、皮膚科部長・黒田啓(秋田大・昭59)緩和ケア内科副部長・野本靖史(昭60)、消化器内科部長・水本英明(昭63)、心臓血管外科部長・茂木健司(昭63)、リハビリテーション科部長・池乃上純男(昭63)、耳鼻咽喉科副部長・大塚雄一郎(平7)が各科の責任者として在籍しております。

当院は東葛南部2次医療圏では、順天堂大浦安病院と並んで3次救急をおこなっている施設で、ドクターカーをも導入し、救命に効果を発揮しております。この救命救急センターを維持するために小児科、産科領域を含めた病院全科で対応し救命率向上を図っております。また、ガン診療連携拠点病院としての役割、平成9年には臨床研修医、後期研修医の良き研修の場となるべく、次世代への医師の育成にも携わってまいりました。今後も、より高度な医療レベルを目指し、これを裏付ける研究および発表、これらを発展させ継承していくための教育を千葉大学とも連携を密に

東京女子医科大学 八千代医療センター

病院長 寺井勝(昭53)



初代伊藤達雄院長(現名 菅院長)の後任として、7月1日付けをもって東京女子医科大学附属八千代医療センター(355床)病院長の指名を受けました。特色ある地域医療モデルを推進することで、わが国の医療の発展に微力ながら貢献したいと希望しています。私は平成18年10月、千葉大学から当地に赴任いたしました。小児医療提供体制

し、行っていきたくないと考えております。相手の立場を考えた姿勢をもち、地域連携を重視し、予防、診断、治療、リハビリテーションまでの一貫した医療の提供を、健全な経営に根ざして行っていきたくと思っております。また、皆様からのご意見にそった改善も必要と考えておりますので、今後よろしくお願いいたします。

わが国の病院医療は大変な危機に直面しています。木を見て森を見ずならぬよう、社会が当院に求める使命をしっかりと見定め、市民が誇りに思う病院作りを目指していく所存です。社会が当院に期待していることは3つあるように感じております。ひとつは、当地に不足する急性期医療、周産期・小児医療そして救急医療を推進していくことです。その整備には大変時間がかかるものと思っておりますが、近い将来、千葉県医療ネットワークの一拠点となり、千葉県の地域医療の向上に貢献できればと考えています。2つ目は、市民が安心して健康を享受できるように、当院が医師会と連携して予防医療に取り組むことです。病院の使命は、病気を治療するだけではなく、病気になるないように、あるいは病気を早期に見つけるようにすることでもあります。そして3つ目は、人材育成です。小規模医療施設であっても、安全で良質な医療の提

供と同様に、人材育成はわたしたちに与えられた大きな使命と考えます。

しかしながら、これらの使命を達成するためには、労働環境の改善と安定的な経営基盤の構築が求められます。既に、初代伊藤院長の時代に運営基盤となる組織作りとRen-X『連携』の精神が培われてきました。市民と集う健康フェスタを毎年、夏と冬に開催しております。このように当院は市民、医師会、行政との距離が近く、この困難を克服できる環境にあると感じています。事実、若手職員が多く、多忙であつても診療科の壁の低い横断的職場環境を「働きやすい」と実感していることです。この病院の限らない可能性を感じます。

た。27名の応募者よりフルマツチした将来性豊かな若者です。若い力は病院の宝

です。若手職員の希望をつなぐ橋渡しの役割をしたいと思っております。

るのほな同窓会賞 受賞によせて

功労賞

東京都医療公社 多摩がん検診センター 西澤 護 (昭31)



この度は2009年度の「るのほな同窓会賞功労賞」という身に余る賞を頂き、大変感激しております。このような栄誉ある賞を頂いたにもかかわらず、受賞のお知らせがあつた頃、ブラジルから来日した教え子に会いに行く途中、自分の不注意から秋葉原駅の階段で転倒、坐骨骨折のため入院せざるをえなくなり、以後すべて同級31会の幹事の小野清四郎先生にお世話になり、受賞式にも出られず大変申し訳なく思っております。受賞の対象になりました私の研究「早期消化管がんの診断とその自然史」は決して新しいものではなく、1960年頃より千葉大学医学部

第一内科の故白壁彦夫先生の研究室に入つて以来、早期胃がんの診断、早期大腸がんの診断、早期食道がんの診断とX線と内視鏡で追求してきましたが、その間特に胃がんにおいては著しく長期間が粘膜炎に存在する例があることを知り、その実証のために長年月を費やしたもので、強いて頂けるのなら努力賞かと思っております。例えば胃がんを例にとりますと、がんが粘膜炎に5年あるいは10年存在するものがかなりあり、それを実証するために、それだけの年月を必要としたためですが、胃がんにおいてはかなり自然史の全貌が分かっています。私自身も、大腸がん、食道がんとなるとその実証方法が難しいため、まだ不明の点が多く、自然史の全容の解明には至っておりません。

ただ、もし自然史が完全に解明されれば、受診間隔の延長に活用できるのではないかと考えております。特に胃がんでは粘膜炎にがんが存在する期間が5年以上あるものが大多数を占めるとしますと、精密な内視鏡の検査を行えば、5年に1度の受診間隔でも良いと考えられます。内視鏡の著しい進歩により、診断が微細になり、ますます粘膜炎

学術賞

米国国立衛生研究所・国立小児発達研究所 生殖/成人内分泌研究プログラム 木野 智重 (昭60)



この度、歴史あるるのほな同窓会賞学術賞をいただきまして大変感激しております。私は昭和60年に医学部を卒業し、旧千葉大学第二内科(現細胞治療学)に入局後、2年間の大学病院内科ローテートによる研修、更に国保旭中央病院にて2年間の内科一般診療研修を行いました。帰局後、平成2年より旧千葉大学第二内科内分泌研究室

に存在する期間が長くなることや、高齢化とともに発育進展がゆっくりになってくることも受診間隔の延長につながるものと思えます。今回の受賞は、選考をしてくださったるのほな会理事の先生方、推薦してくださった多数の先生方およびすべてのお世話をしてくださった小野清四郎先生に心から感謝いたし、御礼申し上げます。

私の研究テーマであり、まずグルココルチコイドホルモンは、副腎皮質より分泌されるステロイドホルモンの一つであり、間脳下垂体副腎系に代表されるストレス反応系の最終産物として作用しています。ストレス応答が生体の生命維持に必須であることから、その生理作用は全臓器に及び、生命活動のあらゆる局面で中心的な役割を果たしています。また、グルココルチコイドホルモンは、強力な免疫抑制作用も有しており、種々のアレルギー疾患、炎症性疾患、自己免疫疾患、臓器移植、更には血液系悪性疾患の治療にも必須の薬剤として臨床に広く使用されております。このホルモンの組織での活性は、種々の生理的状況にお

い、平成20年独立し現在に至っております。日本を離れてから既に14年が経過しており、私は千葉大学の皆様にとつては、既に「あの世の人」になっているのではないかと感じております。世の人になつてしまいましたが、今回このような過大な賞をいただき、受賞を決めていただきました同窓会選考委員の皆様、るのほな同窓会会員の先輩、後輩の諸先生方に大変感謝している次第です。

いて厳密に制御されており、また前記疾患に於いてグルココルチコイドホルモン治療不応状態が惹起される事が知られております。よつて、ホルモン活性調節機構を組織レベルで解明する事は、人体の生理機構の解明上、また新たな治療法を開発する上で重要な医学研究テーマであります。私は、細胞内でグルココルチコイドホルモン作用を伝達しているグルココルチコイド受容体に注目し、生理的或は病的状態での機能を変化せしめる因子/機構を中心に研究を続けて参りました。グルココルチコイドホルモンが広範な臓器に常時働いている事から、得られた研究結果は人体の発生、胎児期の器官形成、小児発達、感染症、成人病、自己免疫疾患、神経疾患、老化、寿命などあらゆる生命活動に意味があり、更には近年大きな社会問題となつているメタボリックシンドロームに代表される糖

を励みとして更に研鑽を重ね、医学、医療の発展に寄与して参りたいと存じます。重ねて、この度栄えあ

学術賞

君津中央病院救命救急センター 救急・集中治療科 国立成育医療センター 研究所 成育政策科学研究部



この度は、るのほな同窓会学術賞を頂戴する光栄にあずかりましたこと、心より御礼申し上げます。

今回の受賞内容「わが国における小児救命集中治療環境の確立と小児蘇生科学の組織化」は、個人の成果ではなく、志ひとつに支えてくれた同僚と後輩皆様のお力添えの賜であること、ここに改めて申し添えます。また、このような機会を得る幸いに至りましたのも、母校で御指導を頂きました教官の先生方はじめ、学生時代からの諸先輩方の御陰でありますことを、学生時代を懐かしく思い返しつづ、改めてここに厚く感謝申し上げます。

るのほな同窓会賞学術賞を受賞させていただき厚く御礼申し上げます。

清水直樹(平)

私は1990年に千葉大学医学部を卒業し、小児科学教室(新美仁男前教授)に入局させて頂きました。その後、数年間県内諸施設で研修させて頂き、優れた千葉県下の小児医療の中において、わが国の小児救命集中治療の立ち後れを体感することになります。そこで、1995年からは国立小児病院麻酔集中治療科で研鑽し、1997年には県内に還元すべく大学病院に戻りました。1998年からはカナダのトロント小児病院集中治療部・救急部の臨床フェローとして留学する機会を得ましたため、いったん千葉を離れることとなりました。21世紀になる迄、わが国における小児救命集中治療環境は極めて未熟であり、その軸となる小児蘇生科学は実在しておりませんでした。2002年に帰国するにあたり米国心臓協会と契約を取り付け、小児蘇生教育体制

をわが国へ導入するに至りました。引き続き国際蘇生連絡委員会(HICOR)との連携のもと、わが国の救急蘇生法の指針策定に関わり、厚生労働科学研究丸川班の枠組みの中で小児蘇生科学の実績を積み重ね、学問としての体系化に携わりました。

小児蘇生は小児救急医学の軸となるものであります。両者とも小児医療の枠組みの中だけでは成立し得ないことを、前任の国立成育医療センターにおける帰国後6年間で気付くことになりました。母校の小児科学教室(河野陽一教授)ならびに救急集中治療医学教室(織田成人教授)の御計らいで、現職場(北村伸哉科長)において一般救命を研鑽させて頂いておりますのは、一般救命の大きな枠組みのなかで小児蘇生・小児救急を捉え直し、新たな小児救命集中治療医学のパラダイムを始造するためであります。2009年には千葉小児救命集中治療研究会を樹立して県行政をも絡め、より良い小児救命集中治療環境を模索する体制を整備しました。2010年には3月に新しく開院する東京都立小児総合医療センターへ赴任する予定です。

はありますが、東京都は千葉県の一部のつもりで、母校である千葉大学医学部発の新たな小児医療政策モデルを国政に反映すべく、るのほな同窓会会員の誇りを忘れず邁進して参ります。若輩ゆえ、今後とも引き続き御指導御鞭撻の程、どうぞ宜しく御願ひ申し上げます。

平成21年度総会において選出された名誉会員

- | | |
|---------------|---------------|
| 田中 光 氏 (昭24) | 横山 宏 氏 (専25) |
| 佐藤 忠夫 氏 (昭29) | 小林 健次 氏 (昭30) |
| 十束 支朗 氏 (昭30) | 藤山 嘉信 氏 (昭30) |
| 村瀬 靖 氏 (昭30) | 森 豊 氏 (昭37) |



学内情報

Aiセンターの活動状況

医学部附属病院放射線部 講師 山本正二(平4)

千葉大学医学部附属病院では2005年11月病理解剖前の死亡画像検査としてAi(オートプシイメージン)を開始した。それ以降2009年6月の時点で200例以上の症例を経験している。開始当初は、病理解剖前の死後画像検査という位置づけであったが、全国的な剖検率の低下は附属病院でも例外ではなく、正確な死因を究明し死亡診断書・検案書を作成するため、病理解剖が行われない症例に対してはAiを実施するようになった。

千葉大ではなぜ上手くいくことができたか

千葉大学医学部附属病院Aiセンターは、放射線専門医会・医会のAiに関する提言の中でもモデルケースとして取り上げられている。附属病院内での検査は、院内の症例、救急搬送症例、他院からの検査依頼などを行っている。また、法医学教室とも協力体制をとり、警察が関与し、司法解剖が行われる症例に対しては、医学部の法医学教室に設置されたCT装置を使用し、遠隔読影システムを用い読影する体制を整えている。こういった振り分けにより損壊の激しい症例は医学部の専用装置で行うことができる。なぜ、千葉大学のAiセンターはうまく稼働しているのだろうか。これには、

今後の展開

今後各地でAiが実施され、Aiセンターが設立されるだろう。ここで一番重要なことは「Aiが検査を実施して終了ということではない」ということである。各施設からの搬送、院内の移動、検査の実施、そして最後に読影まで行われ、初めてAiが完結するのである。他大学の法医学教室での実施も行われているようであるが、それらのデータがどのように扱われるか注意深く見守る必要がある。2008年の法医学会総会での発表では遺族に司法解剖の結果が伝えられるまで

現在ではご遺族の承諾が得られた院内症例に対して、基本的に全例Aiを実施している。また地域医療安全に貢献することは、千葉大学の使命であるとも考え、外部の病院からのAi実施要請に対しても、千葉県医師会の協力のもと、検査を実施している。大学病院レベルでのAi実施は、千葉大学医学部附属病院が全国初である。また病院内で死亡した症例に

2年以上かかるケースが全体の6割を越えている。これは、司法解剖の結果が裁判などで使用され、開示制限されてしまうからである。警察などが関与するA iの情報が同様の扱いをうけると、遺族への説明にも使用することができないという事態が発生してしま

う。今後A iセンターの役割が、これらの情報をすべてまとめたデータベースセンターとしての役割を担うことを考えると、警察あるいは検察によるA i情報の開き込みが行われないように我々医療関係者は、十分注意する必要がある。

第18回性・エイズ教育学会を終えて

千葉大学医学部附属病院
感染症管理治療部

佐藤 武幸 (昭49)

5月10日開催の第18回日本性・エイズ教育学会を主催しました。理事長は本医学部出身で元千葉大学教育学部教授(現名誉教授)の武田敏先生が務められており、本邦でのエイズ教育を推進してきた歴史があります。

である点より、両者共に普遍性を持って対応すべきとの理解もできます。以前より、他の性感染症との普遍性の中でエイズ教育を考えた。この意見もあり、今回より表記の性・エイズ教育学会と「性」が付け加えられました。

昨年度のノーベル医学賞は、エイズの原因であるHIVと子宮頸部癌の原因のヒトパピローウイルス(HPV)を発見した2グループが同時受賞されました。HIVの発見は単独授賞であつてもおかしくない位の貢献があつたのですが、HPVも含まれた意義としては、共に性感染症

会長講演は、上記の立場より、「性感染症の現状と対策」日本性感染症学会認定士(学校教諭・養護教諭)との連携」と題し、現代の三大性感染症である、エイズ、HPV感染、性器クラミジア感染の予防教育について話しました。エイズ教育については、若年者の5〜10%が感染している

と推察される性器クラミジア感染者をエイズ予備軍と考え、その予防対策と連動させて行う方法が有効と訴えました。また、HPVワクチンが早ければ今年中に認可される見込みとなり、主な接種対象者が11〜13歳となる見通しより、小学校6年生からHPVワクチンの意味を伝え、中学生になつたら性感染症予防の観点での性教育をする必要があると訴えました。最後に今年度から設置された「日本性感染症学会認定士」の役割にも触れ、「教育関係者の方々にはぜひこの資格を取得していただき、われわれ医療者と連携して性感染症予防教育を進めていただきたい」と呼びかけました。

急性期入院医療の実態に即した手厚い看護体制の評価として、平成18年の診療報酬改定において「7対1入院基本料」の算定が可能となり、本院においても様々な看護確保対策が講じられた結果、平成20年4月1日付けで182名という大量の新採用者を迎えて、無事、この入院基本料が算定されることとなりました。平成21年度はICUや手術部の稼働を勘案して17名の採用を行い、法人化直後には50名ほどであった看護師数も、現在では常勤換算で約750名という大きな組織となつております。大学病院の機能である「診療」「教育」「研究」という3つの役割の遂行を大前提として、先進医療に対応した安全で質の高い医療・看護の提供、患者さんのニーズに

看護師に関する最近の状況

看護部長 吉川 淳子

「思いやり」など抽象化されているなかで、感染症を重く大きな健康被害と捉え直す必要があり、若年者への教育と医療機関へのアクセス拡大を含めた予防体制構築が強く求められています。

「思いやり」など抽象化されるなかで、感染症を重く大きな健康被害と捉え直す必要があり、若年者への教育と医療機関へのアクセス拡大を含めた予防体制構築が強く求められています。

「思いやり」など抽象化されるなかで、感染症を重く大きな健康被害と捉え直す必要があり、若年者への教育と医療機関へのアクセス拡大を含めた予防体制構築が強く求められています。

さて、人員の確保ができてそれで安心ではありません。医師不足といった課題を解決すべく看護師の業務拡大を図ることはもとより、それら手厚い看護体制を患者さんに還元できるよう、いかに看護の質向上に取り組んでいくかということ、は、いずれの病院においても最大の課題となつております。本院においては、経営戦略のひとつとして導入された「インセンティブ成果」(各診療科や部門に対して収益とマネジメントの両面から成果を評価して報酬を配分する取組)の看護部門の成果項目の中に、看護の質向上を目指した活動を設定して現場の活性化を図ることにしました。具体的には、項目を「研修参加率」「受持ち制看護基準の評価」「看護計画評価実施率」「患者カンファレンス実施時間数」「インシデントレポート分析件数」「クリニカルパス作成数」「学習会開催数」等として、各部署がそれら指標設定値の達成状況により報酬を配分する仕組みを構築しました。昨年度分の取組結果が公表され、病棟部門では約12万円から23万円程の幅で配分が決定し、看護師の院外研修補助、図書、看護研

千葉大学校友会総会のお知らせ

日時：平成21年11月7日(土)
14時00分～
場所：千葉大学けやき会館大ホール
(千葉大学西千葉キャンパス)



究支援費用や各種備品、就業環境整備費等に自由に使用できる経費として支給されております。金額については高いか安いかわからないとは別に、このような取組も活用しつつ看護師のモチベーションを高め、更なる定着促進に努めて、日々変化する医療や看護を取り巻く環境に柔軟に対応できる組織や体制づくりを目指し、活動していく所存です。どうか今後とも皆様方の一層のご指導、ご支援をお願い申し上げます。

学生教育

イリノイ大学シカゴ校

交換留学体験ルポ

実習期間

2009/04/27 - 2009/05/22

コース 感染症科

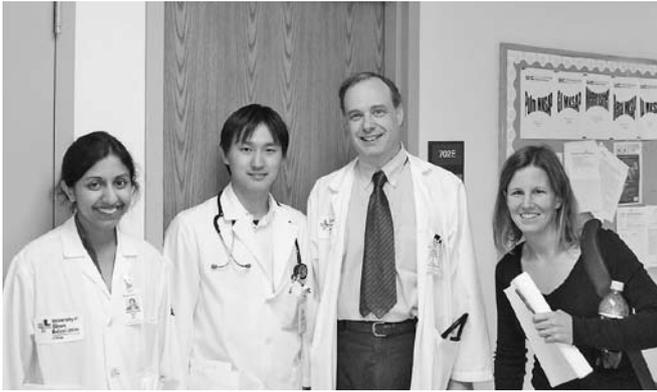
医学部6年

古賀 俊輔

【動機】

私はもともと海外で仕事をしたいという漠然とした思いを抱きながら医学部へ入学した。臨床留学と研究留学のどちらにも興味があり、学生のうちから両者の雰囲気だけでも感じておきたいと考えていた。5年生の夏にZIHの研究室で、自分の研究分野の最先端の現場に参加することができた。アメリカの研究室を見学したら、次は臨床の現場を見てみたいという欲求であった。Medical School S

臨



左から Intern, 古賀, Attending, Fellow

床実習に参加できるというのは将来の進路を選択する上で役に立つと考え、今回のプログラムへの応募を決意した。

【実習内容】

Infectious Diseases は Transplant と General

一日の流れを紹介する。朝8時の症例検討会で一日が始まる。その後、病棟で Fellow に会い担当患者を選定する。まず紹介元のカルテを確認し、患者に会い問診と身体診察を補完した上でカルテに記載する。午後は毎日の回診がメインとなる。新患は3〜5分、フォローの患者は1分以内でプレゼンテーションを行う。回診後に再びカルテ記載となり、Attending のコメントや必要なオーダーなどを書き加える。この作業は16時頃に終わるので、病棟にいる時間は毎日8時〜16時となる。非常に密なスケジュールであった。

Consult という二つのチームからなるが、私は様々な診療科の患者を診たいという思いから General Consult への配属を希望した。



最初で最後の全員集合
左から茂田、古賀、稲垣千晶、池田早希

【考察】

千葉大学のBSLと比較して様々な違いを感じたが、一点のみを取り上げるならば学生のプレゼンテーションに求められるレベルが非常に高いという点であろう。患者の病歴と診察所見から、鑑別診断とその根拠を聞かれるだけでなく、それぞれの疾患を鑑別するための検査や予想される結果、診断基準、そして治療方針についてまで細かく追及される。BSLでも鑑別診断を考える機会は多々あったが、Assessment and Plan まで踏み込んで考える訓練を積んでこなかったため、内容の貧弱さを露呈する結果となってしまった。

Infectious Diseases は第一希望の診療科ではなかったが、4週間の実習を通じて、感染症治療の基本

的な考え方を修得することができた。感染症の知識は将来どの診療科に進んでも役に立つものであり、今では Infectious Diseases を履修できて良かったと思ふ。

【謝辞】

千葉大学医学部とイリノイ大学シカゴ校の交換留学制度は昨年度から始まり、私は第二期生として参加させていただいた。多くの先生方のご尽力の上に成り立っており、このような貴重な機会を与えてくださったことに感謝したい。また、第一期生の先輩方が様々な面で協力してくださったお陰で、充実した実習を行うことができたということも付け加えたい。今後も多くの学生が貴重な経験を共用できるよう、この交換留学制度の更なる発展を願っている。

コース 循環器内科

医学部6年

茂田 啓介

今回、あのはな同窓会誌に執筆の御依頼をいただき大変ありがとうございます。僕は平成21年度イリノイ大学シカゴ校医学部留学メンバーの1人として、循環器内科に4月中旬より5週間、渡米させていただきました。滞在していた5週間は大変刺激的で今でも昨日のこのように実習中の風景や担当した患者、勉強した内容などを思い出さずことができ、大変有意義であったように思います。今後の千葉大学に対するお願いも含め、アメリカ医療について少々報告したいと思ふ、執筆させていただきます。と思います。

まず、アメリカの臨床現場についてですが、かねてより言われていますように各科の内容は高度に専門化し、その影響で医師の仕事も非常に細分化しており日本では医師が当然のように行っている業務もアメリカでは他の

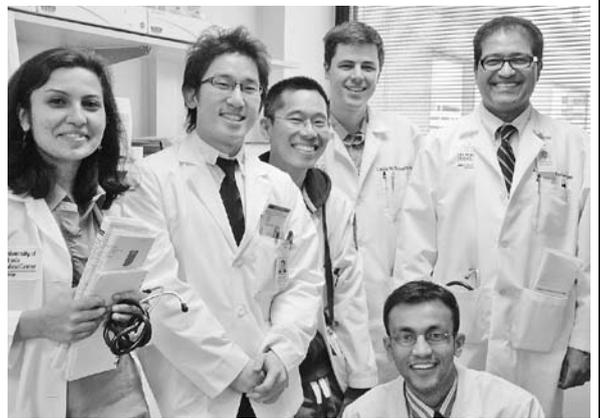


イリノイ大学病院

業種の人間が担当することはしばしば見受けられました。例えばエコーを当てるのはエコーの技師、カテーテル治療で道具や環境を整えるのはカテーテル技師、ストレッチャーを運ぶのはストレッチャー担当員など、仕事を行う上で最大限に効率化を図っているようです。よって、日本と異なり、アメリカの医師は業務が朝の8時から遅くとも17時には完全に片付いていました。逆に19時になっても20時になっても残っている医師は、仕事ができない医師とレッテルを貼られ、文化の違いを目の当たりにしたことを覚えています。また家族や友人をとっても大切に

次に今回の留学で気づいたことの一つとして、他国からの実習生の姿勢について申し上げたいと思います。僕が実習した循環器内科ではインドからの医学生が実習に来ており一緒に回るようになりました。アメリカには臨床留学を希望するために毎年多くの医学生が、主にインド、パキスタン、中国から渡来してきており、実習中にいか

にする文化があるのでプライベートの時間が確保されていること、1年に1か月のvacationが必ずあるという点など医師のCOOLの高さは、忙しいといわれている循環器内科においても例外ではありませんでした。



循環器内科スタッフ (左から二人目 茂田)

最後にこの場をお借りして、

3点が重視されます。そのため、他国の学生は留学期間中に必死に自分を売り込み、強い推薦状にありつけるようにするというのが王道のようでした。僕が驚いたのは、インドの医学生は幼稚園から英語を学び、現地のBSLは全て英語で行い、また知識も申し分ない、という点でした。毎年インドから渡来することができるとは、一国の中で定員が決まっております、その競争に打ち勝った、生粋の頭脳集団がアメリカに短期留学しているようです。このことを踏まえ、千葉大学からの学生も今後留学前にできる限りの準備をする必要があるかと思えます。

に自分をアピールするかに重きを置いていました。アメリカ臨床留学には、学生中での現地の臨床実習、強い推薦状を書いてもらうこと、そして自国での論文掲載や学会発表の



ブルーマンと

てこの臨床プログラムを今後発展させていくうえでいくつか千葉大学にお願いしたいことがあります。短期臨床留学するうえでやはり障壁となるのが語学能力かと思えます。これは日本人であればだれでもB2以上となるものであり、にも関わらず実際現場で実習を行うには必要不可欠です。どのように自分の意思を伝え、コミュニケーションをとるかは臨床の現場で事故やミスを避けるためにとても大切と感じました。僕が医学部で授業を受けていたときには2年生で英語の授業はなくなってしまう、その後自主学習の形でしか学ぶ機会がありませんでした。ぜひ、高学年になっても何らかの形で選択でもよいので参加型のspeaking classを設けてほしい、世界に通用する千葉大学を作ってほしいと思えます。また、5週間の渡米には滞在費、旅費、生活

費合わせて35万円程度かかり、金銭的理由で断念した学生も少なくありません。今後、何らかの形で援助をいただければ、この短期留学をより門戸の開かれた選択肢として学生が考えていけるのではないのでしょうか。僕はこの留学で世界を知り、己を知ることができ、千葉大学在学中に得ることができたひとつの財産だと切に思っております。今後多くの後輩が僕と同じ、またはそれ以上の感動を現地ですべて得てくることを願って止みません。

最後に、この留学プログラムを支えてくださった田辺先生、朝比奈先生、田村先生、佐伯先生に心から感謝を申し上げたいと思えます。また、今回留学することを快く了解してくれた医学部ヨット部の同輩にも非常に感謝しております。イリノイ大学短期留学プログラムのますますの発展を祈って、この留学報告を締めくくらせていただきます。どうもありがとうございました。

最後に、この留学プログラムを支えてくださった田辺先生、朝比奈先生、田村先生、佐伯先生に心から感謝を申し上げたいと思えます。また、今回留学することを快く了解してくれた医学部ヨット部の同輩にも非常に感謝しております。イリノイ大学短期留学プログラムのますますの発展を祈って、この留学報告を締めくくらせていただきます。どうもありがとうございました。

最後に、この留学プログラムを支えてくださった田辺先生、朝比奈先生、田村先生、佐伯先生に心から感謝を申し上げたいと思えます。また、今回留学することを快く了解してくれた医学部ヨット部の同輩にも非常に感謝しております。イリノイ大学短期留学プログラムのますますの発展を祈って、この留学報告を締めくくらせていただきます。どうもありがとうございました。

千葉医学雑誌85巻 3号目次

展 望	呼吸器病学 21世紀の課題	異 浩一郎
原 著	Selective Reduction and Recovery of Invariant V α 24J α QTCR T Cells in Correlation with Disease Activity in Patients with Chronic Graft-versus-Diseases	Hideki Hanaoka, Yoshinori Oishi, Akemi Sakamoto, Kazuhiro Kurasawa, Miki Nishimura, Itsuo Iwamoto, Yasushi Saito
	The potential role of patient awareness regarding one's own medical data in the management of lifestyle-related diseases	Yukiko Neff, Hideaki Bujo, Yo Miyashita, Daigaku Uchida, Toshiaki Ban, Jun Tashiro, Kenya Yamazaki, Ko Ishikawa, Takahiko Tokuyama, Meizi Jiang, Toru Kawamura and Yasushi Saito
症 例	対麻痺が癌の初発症状となった転移性胸髄内腫瘍の1例	鈴木 都 大河昭彦 村上正純 染谷幸男 門田 領 宮下智大 萬納寺晋人 高橋和久 山崎正志
研 究 紹 介	クライオピリン関連周期熱症候群の病態解析	神戸直智 中村悠美 松江弘之 生水真紀夫 碓井宏和 石川博士 木原真紀 三橋 暁 楯 真一 加藤一喜 尾本暁子 田中宏一 長田久夫 山本正二
話 題	千葉大学医学部附属病院Aiセンター	
海 外 だ よ り	平成20年度 千葉大学ベストティーチャー賞を受賞して -小児病棟の患者さん達へ感謝を込めて-	菱木はるか
学 会	グローバルCOEプログラム「免疫システム統御治療学の国際教育研究拠点」	本橋新一郎 中山俊憲
編 集 後 記	セントルイスに3年間留学して	神田達郎
	第1173回千葉医学会例会・整形外科例会	

千葉医学雑誌85巻 4号目次

原 著	Static postural control with aging in a vertical direction and on a horizontal plane	Yumi Asano, Ichiro Shimoyama and Atsushi Murata
	Effect of Aging on the Vibration of Human Body in the Vertical Direction during Quiet Stance	Yasufumi Kasagi, Ichiro Shimoyama, Susumu Yoshida, Ken Nakazawa and Toshio Fukutake
症 例	Osteosynthesis for hip fracture in a 107-year-old man: a case report	Junichi Nakamura, Yutaka Ono, Akira Ogasawara, Shunji Kishida, Koya Kamikawa and Kazuhisa Takahashi
研 究 紹 介	神経内科学: 講座紹介	桑原 聡
	CD4陽性T細胞におけるIL-21産生制御機構	須藤 明 柏熊大輔 加々美新一郎 中島裕史
	耳鼻咽喉科・頭頸部腫瘍学教室	岡本美孝 露口利夫
	腫瘍内科学教室	横須賀收 今関文夫 吉川正治 石原 武 丸山紀史 新井誠人
	先端応用外科学(食道胃腸外科)	
	胃内視鏡的粘膜下層剥離術の術中患者ストレスの評価: 唾液アミラーゼ活性測定の有用性の検討	上里昌也 鍋谷圭宏 松原久裕
海 外 だ よ り	シンシナティ留学記	酒井 望
ら い ぶ ら り い	ビッグ・ファーマー製薬会社の真実	
怖くて飲めない! -薬を売るために病気はつくられる		石出猛史
学 会	第1177回千葉医学会例会・第26回神経内科教室例会	
	第1179回千葉医学会例会・第29回歯科口腔外科例会	
編 集 後 記	第85回千葉医学会学術大会 (第46回日医生涯教育講座)	

研修プログラム

千葉市立青葉病院

副院長 千葉大学医学部臨床教授 高橋 長裕 (昭45)

当院は、千葉大学医学部附属病院から目と鼻の先にある380床の病院で、平成15年に旧千葉市立病院から新築移転して新たに開院しました。開院から6年になりましたが、千葉市のみならず、県内各市町村からの患者さんを含めて、地域の中核を担う病院として成長を遂げております。

今回は当院の医師臨床研修プログラムについて紹介いたします。まず初期研修については、青葉病院の基幹型プログラムとして毎年4名の研修医を採用しています。これに大病院への協力型病院としての研修医が加わり、全部で12〜14名の卒後1〜2年の医師が研修しています。当院の研修プログラムは、家族のな雰囲気の中で、豊富な症例を受け持ち、総合的な研修ができるという点です。初期研修の中では内科研修が



大きなウエイトを占めます。当院の内科には、内分泌・代謝、消化器、呼吸器、循環器、血液、神経内科の専門科がありますが、教育・研修に関しては、各専門領域の症例を並列で同時に担当し、複数の指導医について研修をして貰っております。多くの問題を持つ患者さんの場合など、他科へのコンサルト、共診・併診も極めてスムーズに行われ、比較的規模の小さい病院

院の利点を活かした、スタッフ全員の顔が見える、血の通ったチーム医療の実践を、身をもって経験して頂けると思っています。開院以来、完全ペーパーレス・フィルムレスの電子カルテシステムが動いており、診療データには院内どこからでもアクセスでき、医局で上級医を捕まえて自分の症例について気軽に相談するといったことが簡単にできます。

後期研修については、だいたい10名の卒後3年〜6年の医師が各診療科で働いています。これらの大半は千葉大学の医局に何らかの形で所属しており、各々のキャリアパスに沿って、当院での臨床経験からできるだけ多くのものを学びとって貰えるよう、研修体制の改善に努めております。大半の診療科が各科専門医取得の為の研修施設の設定を持ってはいますが、いずれの科も当院でのトレーニングのみで専門医としての知識・技術を身に付けるのは不十分・不適切であると考えており、大病院および他の関連病院を含めた総合的プログラムに則った研修が必須であると思えます。現在各科で、個々の後期研修医について大まかなプロ

グラムを設定しています。が、大学の各診療科から毎年決まった形でのローテーションによる、専門研修プログラムの構築を目指しています。

千葉市の運営する病院はもうひとつ、千葉市立海浜病院があります。限られた医療資源をより有効に利用するには、両病院のより密接な連携・機能分担が必要です。臨床研修に関しては、青葉病院研修プログラムに海浜病院が協力型病院として参画する形になっていますが、その他の分野で

成田赤十字病院

研修管理委員長 柳沢 孝夫 (昭51)

成田赤十字病院は北総地域の広い診療圏を持つ地域の基幹病院です。719床の病床と19診療科を有し、現在160程度の医師が診療にあたっています。当院の主な特長は次の3点であると思えます。

- (1) 3次救命救急センターを有し、年間8,000程度の救急車を受け入れていること。
- (2) 成田国際空港に近く、空港からの患者さんを診療するケースが多いこと。
- (3) 卒後臨床研修には新臨床研修制度が始まるはるか

も、よりしっかりと連携体制を目指しています。しかし両病院とも大学とのコラボレーションなしで生き残るのは困難です。両市立病院を第2、第3の大学付属病院として利用して頂くことで、千葉大学での臨床研修・臨床研究に積極的に参加すると同時に、大学には両市立病院のマンパワー面その他を強力にサポートして頂くといった、お互いにとってメリットがある関係が構築できないものかと考えております。

前から特に力を入れて取り組むこと。

救急については夜間も8〜10名の医師が当直に当たっており、地域で発生するほとんどもすべての2次、3次救急に対応可能な体制をとっています。高い診断技術をもつ超音波技師が毎日当直しており、各科の診療の大きな力となっていることも他院にない特長です。

空港からの患者さんはさまざま、珍しい疾患を経験できることはもとより、世界各国の医療文化の違いを身をもって体験できま

す。最近の新型インフルエンザについては我が国第1例目を受け入れており、その後の20症例を合わせ臨床像、検査値、サイトカインの動き等を詳細に検討し、新型インフルエンザの多症例解析としては世界で初めての報告をウイルス学会で行っています。

臨床研修については、当院は新臨床研修制度が始まる以前の平成7年から臨床研修指定病院であり、現在まで数多くの初期、後期研修医を育成しています。

平成22年度の初期臨床研修プログラムは成田赤十字病院初期臨床研修プログラム8名、成田赤十字病院初期臨床研修小児科コース2名を募集しています。どちらのコースも内科、救急、外科を必修としています。小児科コースは将来小児科医を目指している人を対象としたコースで研修開始時小児科3ヶ月をまず研修したのち内科、救急、外科を研修します。

後期研修についても13診療科で20名を越える医師を募集しており、各科、分野で認定医、専門医試験の



受験を目指すことと同時に、真の意味で実力のある医師の育成を行っていただきます。

当院の卒後研修の基本理念は、患者さん・スタッフとしっかりとコミュニケーションがとれること、医師としての総合的判断ができること、専門医を目指すものがあるいはすでに専門医資格を有しているも常に全身管理のできる医師であることの3点です。

成田赤十字病院で初期または後期研修すれば将来どの様な分野に進むにしても真に実力のある医師となることは保証できると言っても過言ではないと思っております。

各地のなはな会 だより

八千代のはな会 報告

例年に比し花信の早い平成21年4月11日(土)夕刻、八千代のはな会が市内イタリア地中海料理パツンノビータにて開催された。八千代市は現在人口19万人を超え、年少人口15.3%(全国平均13.4%)の未だ人口増加の若い市です。八千代のはな会も東京女子医大八千代医療センター(TYMC)開設と共に科長クラスに研修医を加えて二十四名を数え、総数67名の市内最大の勢力になりました。開設準備室長時代からご尽力戴いたTYMC院長伊藤達雄先生(昭42)が3月末を以て勇退され名誉院長となられ、4月より寺井勝小児科長(昭53)が後継の病院管理者に就任されたこと、飯田秀治先生(昭43)が、閉院ハッピーリタイアされるので、お二人の先生のご苦労さんと寺井先生の就任祝いを兼ね、日頃お世話になっているTYMCを支えている多くののはな同窓と懇親を深め、顔

の見える病診連携への良い機会と捉え、八千代の地域医療の現在から未来への展望を率直に熱く語りあった。鈴木豊先生(昭41)が司会を務め、会長の杉岡昌明(昭37)が開会的主旨を挨拶で述べ、伊藤達雄名誉院長がTYMC開設準備から今日までのご苦労話と開院後の実績を語られ、次いで新院長の寺井勝先生がTYMCをマグネットホスピタルへ進化させたいと今後の抱負と同窓への更なる協力を希望された。飯田秀治先生は自己の人生設計どうりの素直なりタイアで、林住期であることを淡々と語られた。三浦徹蔵先生(昭39)の洒脱な挨拶と乾杯の発声で懇親会が始まり、シャンパン、ワインがすすむと伴に口元も緩み、出席全員の自己紹介の頃は盛り上がり、初々しい若きTYMC研修医のスピーチの医療への志には掛け声と拍手が答え、5人の女医さんの参加もあり華



やかさに加えて今日の医療界に於いては欠くべからざる頼もしい存在の女性パワー・仕事力を感じまし

た。和気藹々のうちにアツと云う間に時間が過ぎ、中嶋征男八千代市医師会副会長(昭47)の閉会の言葉で終了し十時前に散会。私は若き研修医諸君と市内のカラオケスナックへ、年甲斐も無く午前様でした。TYMCから14名の参加があり、総勢31名の盛大な意義深いのはな会を企画し幹事役の労を執ってくれた鈴木豊先生、椎原秀茂先生(昭52)、加藤里絵先生(平4)に感謝いたします。

出席者左から
前列…
菅原宏(昭39)、三浦徹蔵(昭39)、加藤昌義(昭36)、藤田真(昭32)、杉岡昌明(昭37)、伊藤達雄(昭42)、飯田秀治(昭43)、寺島市郎(昭38)、椎原秀茂(昭52)

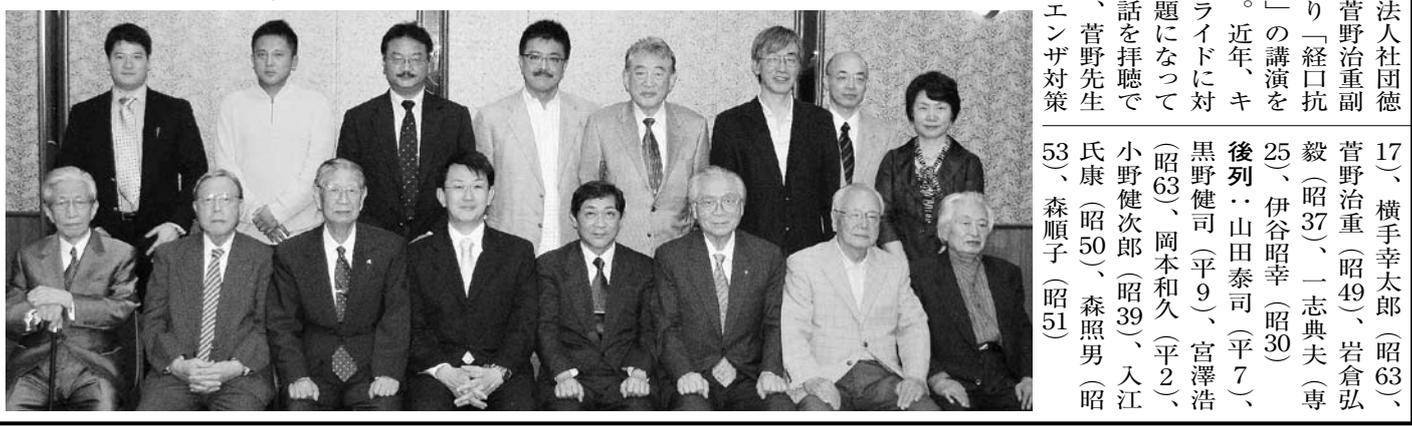
中列…平良真人(昭56)、中川典明(旭川医大・昭60)、中嶋征男(昭47)、鈴木豊(昭41)、佐藤政教(昭

44)、浜野頼隆(昭46)、加藤里絵(平4)、根橋紫乃(平7)、長真理子(昭54)、柳橋京子(昭46)、西出敏雄(昭53)
後列…関根康雄(昭62)、廣瀬陽介(平16)、橋本尚武(昭55)、寺井勝(昭53)、中野雅行(昭45)、木村翔(平20)、大澄亜紀(平20)、青木孝浩(平20)、松浦玄(平11)
写真撮影時、出席者の宮腰達朗(昭40)、木村友則(平20)は退席。
(杉岡昌明)

江戸川のはな会 総会開催

5月16日(土)、「平成21年度江戸川のはな会総会講演会」が日本橋のロイヤルパークホテルで開かれ、当日は天候にも恵まれて14名の出席の盛会となりました。最初のご講演は、今年5月1日に就任したばかりの千葉大学大学院医学研究院細胞治療学(旧第二内科)教授、横手幸太郎先生(昭63)による「メタボリックシンドロームと健康寿命」の講演をいただきました。脂質代謝の第一人者である先生の話は、日常診療のみならず自らの健康にも係るお話しでした。

次いで、医療法人社団徳風会高根病院、菅野治重副院長(昭49)より「経口抗菌薬の使い分け」の講演をいただきました。近年、キノロンやマクロライドに対する耐性菌が問題になっており、貴重なお話を拝聴でき、興味深いお話をさせていただきました。
総会は、岩倉弘毅先生(昭37)の挨拶に始まり、入江氏康先生(昭50)より平成20年度の収支会計報告と円滑に進行し、無事終了しました。
最後に、去年亡くなられた、市川芳郎先生(昭25)のご冥福を祈り黙祷を捧げました。
その後、懇親会へと移り、歓談を深めました。
出席者左から
前列…福田陽信(昭32)、藤山嘉信(昭30)、山上健次郎(専



17)、横手幸太郎(昭63)、菅野治重(昭49)、岩倉弘毅(昭37)、一志典夫(専25)、伊谷昭幸(昭30)
後列…山田泰司(平7)、黒野健司(平9)、宮澤浩(昭63)、岡本和久(平2)、小野健次郎(昭39)、入江氏康(昭50)、森照男(昭53)、森順子(昭51)

ク ラ ス 会

六葉会 (専24)

毎年行なわれている六葉会同窓会は、平成20年度も恒例に従い、10月26日(日)正午から、銀座アスターお茶の水賓館で開催致しました。

本年度は、卒業生全員が満80才を超えたため、多数の会員の出席が期待されましたが(平成17年度20名、18年度20名、19年度16名出席)今回は15名の方から出席の返事をいただきました。本年度は、卒業生全員が満80才を超えたため、多数の会員の出席が期待されましたが(平成17年度20名、18年度20名、19年度16名出席)今回は15名の方から出席の返事をいただきました。本年度は、卒業生全員が満80才を超えたため、多数の会員の出席が期待されましたが(平成17年度20名、18年度20名、19年度16名出席)今回は15名の方から出席の返事をいただきました。



発声により乾杯をして宴会に入りました。今回も全員からスピーチをいただくことにしたところ、昭和20年7月7日千葉市が空襲により焼野原となり、その時に大学の基礎教室も全焼した状況

同年7月下旬には大学院のレントゲンなどの医療機器を長野県天龍川沿いの大下條村温田に疎開させ、その整理のために、私達医学部学生が疎開をかねて現地の農家に分宿したが、僅か、2週間余りで終戦となり、現地に残して来た医療機器が活用されて県立阿南病院設立の基礎となったいきさつ、

終戦後当分の間無気力状態がづづいたこと
卒業後の医局での研究生活の話や開業当時の苦労話
ベーチエット病にとりくんだ人達が、現在でも活動をづづけているいきさつなどに始まり、現在の医療崩壊、医師不足、電子カルテへの移行の問題点などが話合われ、現在でも半数以上のものが何らかの形で医療に従事していることが判り、予定を1時間もオーバーして、3時すぎに終了となりました。そして、最後に幹事より平成21年は卒業後60年の節目の年であるが、同窓会を開催すべきか、どうか提案があり、話合った結果同一会場



小関芳昌 大沢弘和 森巨敬 原寛

八千会 (専26)

平成21年5月30日(土)午後6時より卒業58年目の同窓会、八千会が浅草ビューホテル内、和食

我々のクラスは毎年同級会をひらいておりますが、本年度は6月27日(土)午後6時から東京飯田橋のエドモンドホテルで開催しました。80名だったかの卒業でありましたが、24名の級友およびご婦人3名が集まり、盛大にもりあがりました。千葉大学はじめての女医である窪田先生と私が幹事をやりましたが、窪田先生には他のご夫人と一緒に受付と会計をやっていた

爾久会 (昭29)

判つてはいたが現実としてはなかなか受け入れがたいものがある。今迄、ゐのはな同窓会がどれだけ生まれ

出座者左から
前列…佐藤忠夫、朝岡威親、島崎淳、富岡清海、窪田叔子、中野夫人、有馬夫人、柴田夫人
二列目…和田房治、渡辺四郎、実川浩、柴田千葉男、西三郎、陶易王、中山宗春三列目…中島哲二、大藤正雄、奥平昌彦、荒木晃、大

り本年2月に続けて亡くなられた佐藤宏、多田桂一両君まで、24名の逝去者のお名前を順に読み上げ黙祷を捧げる。総会報告、会計報告、監査承認の報告があつて議題に移る、勿論、向後の八千会に付いてであった。間近に迫った会の終焉について色々話し合ったが結局アンケート調査にて広く会員の声を聞いた上で判断する事となった。同窓会も人が主役の集まりであるからその寿命の尽きる頃、終焉を迎えるのは

原一夫、中野練一
後列・根本幸一、小出紀、
米本昭彦、永瀬敏行、有馬

道男、長谷川透

(島崎淳)



るのな37会
報告 (昭37)

梅雨の谷間の晴天に恵
まれた平成21年6月27日
(土)にるのな37クラス
会を帝国ホテル東京・雅の
間で行った。東京周辺の朋

友は年に4回、勝田君の肝
いりで、秋葉原の居酒屋
「和が家」に勝手に10名前
後集まり、ミニ・37クラス
会と称して情報交換、旧交
を温めているが、大型クラ
ス会は3年振りだった。ク
ラス75名のうち、既に物故

者15名を数え、前回より広
島の久賀克也君、埼玉の新
井モモ子さんを失った。返
信率96%、59名中34名出席
の返信(1名住所不詳)、

外国在住2名。前日、郡山
の十林君、当日瀬川君が体
調不良で欠席となったが、
特に、今回は貴重な女性軍
4名全員の参加をえて、錦



上花を添えていただいた。
今日、市場原理主義ウイ
ルスによる「Japan is dy
ing」で医療崩壊の下、豚
由来インフル騒動も加わっ
ているが、人病人の為に
医療がある(恩師川喜多
教授の言葉)を心して頑
張ってきた面々、32名の出
席をえた。資料として、欠
席者のメッセージと、がん
と闘いつづけた生涯―嶋
田晃一郎の思い出―、彼
との出会いと生涯の付き合
い：油井信春君の9ページ
に及ぶ独協医科大学胸部外
科教室の「嶋田教授追悼文
集」から参加者全員に配
布した。物故の友のご冥福
を祈り黙祷し、長崎から術
後を押して遠来の山口国行
君(現長崎県医代議員会副
議長)の乾杯の発声で歓談
を始め、着席ブツフェと平
行して3分スピーチを全員
にお願いした。第一線から
引退して悠々自適のもの、
長年の蘊蓄を語るもの、仕
事を減らしたり、ギャヤ
シフトチェンジして現役続
行のもの、医療的資源で
社会に還元しているもの、
生涯現役を目指すもの、な
どなど立場、容姿は変わっ
ても人生のロスタイムと思
わせない生き様と医学生時
代と変わらぬ昔気質に感
涙、感服した。人生のアフ

ター・ファイブを各々上手
に「with a gang」で頑張っ
ている諸兄姉と懐かしくも
楽しい時間は瞬く間に過ぎ
た。年齢と時間を勘案して
独断で2次会は設定せず、
ハイタッチで再開出来るこ
とを誓い散会した。気が置
けないクラスメートはい
い、やっつてよかった。
出席者左から
(杉岡昌明)

後列・山本駿一、大原啓
介、勝田貞夫、奥山隆保、
高梨健治
のな同窓会館設立事業
では三億円を目標に、現在
その半分を達成できたこと
で、参旧会のメンバー
からも36名の寄付納入者が
「るのな同窓会報151号」
に掲載された。(当初伊藤
晴夫氏―るのな同窓会
長―が創立135周年事業に
ついて話す予定であった
が、千葉市での市民講座に
出席のため、総会には欠席
となり残念であった。)医
学部・病院関係では研修医
の研修環境の向上を目指し
て、単身用39室のレジデン
トハウスが3月19日にオー
プンし、研修医確保への効
果が期待される。次回の参
旧会開催の具体案は崎山
塚田両氏にゆだねられる形
となった。(後刻、来年は

参旧会

(昭39)

昭和39年(1964)卒のクラ
ス会(参旧会)は、平成
19、20年度にはともに東京
で開催された。平成21年度
は地方での開催が求めら
れ、長野県、群馬県(信
州、上州)に在住の会員が
幹事となり、平成21年5月
23日(土)に軽井沢プリ
ンホテル西館で行われた。
折から新型インフルエンザ
の流行が関東にも広がる気
配で、不安の下であった
が、夫婦同伴の出席を含め
45名が一年ぶりに顔をあわ
せた。昨年10月に鈴木直樹
氏が逝去され、そのご冥福
を祈ったあと総会を岡野幹
事の司会で開いた。「新

山形で、再来年は徳島で開催予定との連絡をうけた。宴会中は各会員が近況を披露、また出席できなかった会員についての情報交換もあった。2次会ではなつか



しのメロデー調で久しぶりにカラオケを楽しんだ。翌24日(日)には例年どおり2組に分かれての行動となった。ゴルフ組は栗林幹事の案内のもと、プレー

を楽しんだ。観光組は鬼押し出し園からメルシャンウイスキー蒸留所を見学した。時々の雨模様のため浅間山頂は見ることができなかったが、軽井沢を信州側(長野県)と上州側(群馬県)から見てもらえた。そして再会を期して軽井沢駅前で散会した。

出席会員：秋草克彦、飯田義信、遠藤毅、大河原邦夫、大塚嘉則、重松秀一、宍戸英雄、清水天、高根健、塚田正男、万本盛三、三浦徹蔵、山下明美、本村八重子、山口正敏、崎山樹、栗林士郎、今野貞夫、菅原宏、千葉胤道、永山恵美子、平形昭代、本間誠、上原朗、岡野照美、計見一雄、川西恭子、山本弘、番場秀和(順不同)(重松秀一)

卒業30周年記念会 (昭54)

早いもので卒業後30年が経過したが、これを祝って東京駅傍の八重洲富士屋ホテルで30周年記念会を開催した。今回は巽浩一郎君が

同級生で初めて千葉大学大学院医学研究科の教授(加齢呼吸器病態制御学)に就任されたこともあり、同級生の会(仮称郷土会)の代表になつていただいた。案

内状など事務仕事を引き受けていただき、昭和48年に入学あるいは昭和54年卒業者に参集いただいた。5月2日の連休の最中ながら、各専門領域でそれぞれ活躍の面々がなんと総勢52名集まりました。参加者は、北は青森から南は大阪まで全国各地からこの会に参加してくれました。勤務先も大

学病院では、千葉大、弘前大、金沢大、埼玉医大、浜松医大、愛知医大などで教職についている。病院勤務医では千葉県内の主な病院は当然ながら、国立循環器センター、聖隷三方原病院、日産厚生会玉川病院など各地で要職につきながら活躍しています。参加者では、新型インフルエンザについて、昨夜テレビでコメントしていた行政マンも参加しています。開業してその地の名士になられている方も数多く見受けられ、開業20周年を終えた方も何人かいたようである。



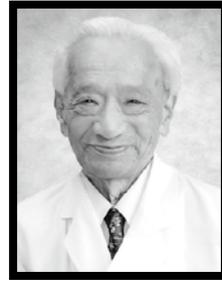
したが、当然ながら話したくない方も数多く、3時間の記念会も笑いの中瞬く間に過ぎてしまいました。最後に記念撮影となりました。最後に参加者誰もが幸せそうな顔で写っています。酔いもほどほどで、元気に再会できることを祈念して閉会となりました。

「本当に同級生って、いいもんですね!!」
出席者左から
前列：石毛夫人、篠遠仁、濱口典子、稲葉英夫、長真理子、宮崎泉、巽浩一郎、嶋田耿子、高田啓一、高田郁子、吉田明子、松原公護、福田幾夫
二列目：白土英明、岡田修、高田彰、今関文夫、渡辺恒家、宮本恒彦、軍司祥雄、沼田勉、小林繁樹、龍岡穂積、桜山豊夫、石川広巳
三列目：石毛俊行、巷岡博、梶川工、田川雅敏、岡野久、杉浦信之、名古屋輔、難波宏樹、桜山由利、角南祐子、萬伸子
四列目：谷山新次、小林進、中村真人、野本正嗣、大竹明、古閑啓二郎、永瀬裕三、下条直樹、斎藤博明、杉田克生
後列：栗原正利、齋藤正仁、長雄一、鶴田好孝、鈴木良一、今井均、諸田英夫(杉田克生)

追悼文

三宅和夫先生を悼む

茨城あのはな会会長 佐藤 忠夫 (昭29)



茨城県西総合病院名誉院長、千葉大学同窓会名誉会員の三宅和夫先生が去る5月1日に88歳の天寿を全うされ、ご逝去されました。昭和34年第一内科教室より岩瀬国保病院に派遣されて以来40年にわたり、あらゆる面でお世話になり、茨城あのはな会会長を引き継いだ立場から追悼の言葉を述べさせていただきます。

先生は、昭和21年9月千葉医科大学を卒業され、千葉医科大学第一外科に入局され、昭和29年8月より昭和31年2月まで国立松本病院外科医長、信州大学講師、昭和31年3月より昭和32年6月まで千葉大学第一外科講師をへて、昭和32年6月岩瀬町国保病院に赴任されました。当時岩瀬町を

中核とする県西地区は、医療過疎地帯で三宅院長の赴任と千葉大学の全面的な支援のもとに当時の先端の設備で一般病床と結核病床を持ち、胸部外科、消化器外科を中心として活躍されました。当時神の手として、村民の信望をあつめ、医療のみならず町の相談役としても、実績をあげられました。その実績のもとに、昭和42年5月には隣接診療圏内の4町1ヶ村の病院組合を設立し、施設設備を拡充し昭和43年12月に県西総合病院を開設して初代院長に赴任され県西地区の中核病院として以後4期にわたり、病院の拡充と施設整備をはかり、地域医療のために努力されました。

その傍ら社団法人全国国民健康保険診療施設協議会副会長、茨城県国民健康保険審査委員会、茨城県成人病対策委員会、茨城県対癌協会理事、等県内外の公職を歴任されました。平成4年3月病院を退職、名誉院

長として病院の運営に参加すると共に、茨城県保健医療監査官として医療水準の向上と適正医療の普及と指導に貢献されました。その功績により平成5年11月に勲四等瑞寶賞を受賞され、さらに平成14年には岩瀬町名誉町民に推奨されました。

また、平成10年茂在先生の後、茨城あのはな同窓会の会長に就任されました。現在県内の同窓は200人を超えており、ことに県西病院、筑波大学の医学部ができてから、千葉大学の出身者が重要ポストに多数着任され若い医師が多数入会され新発展をとげましたが、先生は同窓の親睦と意思の疎通、お互いの協力のため、あらゆる機会に会合を開き、同窓会の例会、県内の関連病院の会合七夕会など努力されました。先生は温厚、誠実にすべての人に接し確実な判断の元にあらゆるところで最後まで現役活躍されたと、聞いております。

中心の先生のご逝去によりあらためて先生の存在の偉大さを痛感するとともに、今後の会の運営に会員と協力して努力していく所存でございます。先生のご冥福をお祈りいたします。

井出源四郎先生の御兄弟と私

水間 正冬 (昭17)

昨年11月28日に井出源四郎先生がお亡くなりになったことをあとで知り大変驚きました。

井出源四郎先生は私が卒業した中学校、高等学校、大学を通じての後輩で、実に70年にも及ぶ長い間の親しいおつきあいでした。

(私の後輩で長い間の親しい友人だったので、これからは源四郎君と言わせて頂きます。)

私は昭和9年3月に長野県佐久市野沢の旧制野沢中学校(佐久では唯一の県立で、優秀な先輩が多く輩出している名門校で、現在野沢北高等学校になっております)を卒業しました。源四郎君は私が中学5年生になった昭和8年4月に入学してきましたので4年後輩でした。私は旧制松本高等学校理科を卒業して昭和14年4月に千葉医科大学に入学しました。源四郎君は昭和13年4月に旧制松本高等学校理科に入学しました。親友であった三石久君という同級生が昭和14年に肺結核で急逝してしまいました。

その後私と源四郎君はいろいろな会合でよく顔を合わせることもありましたが、源四郎君はいつも私の名前を出して、「僕は中学、高校から大学までずっと水間先輩のあとを追ってきまして、僕の最も尊敬している先輩です。」というようなことをよくおっしゃっていましたので、私はいつも大変面はゆい思いをしたものです。

ところで、源四郎君の生家は、佐久市白田の「橘倉商店」という古くからの造り酒屋で「菊秀」という銘酒を出してあります。お父さまは長い間、長野県の県議員をされておりましたので大変有名な方でした。そして、何よりもすばらしいのは、周辺の人達から尊敬され憧れの眼で見られていた6人の男の御兄弟でした。一番上の一太郎先生はじめ6人全員が私の母校の野沢中学校に進み、そのうち4人も松本高等学校に入学しております。

一太郎先生は中学4年修了で松本高等学校文科に入学された秀才でしたが、卒業後御家庭の事情ですぐに大学へ進まず、数年間家業の酒造りに専念された後京都大学の農学部に入學されました。御存知の方も多

いと思いますが、戦後昭和21年から衆議院議員に連続当選され、農林大臣、郵政大臣等を歴任されたあと、三木内閣の官房長官になり三木首相の片腕となつて活躍されました。大変真面目な清廉潔白な方で、最近では見られないような立派な政治家でした。二番目の寛治郎さんは私の1年先輩でしたが、御家庭の事情で上の学校へは行かずに家業の酒造りを続けられたようです。三番目の武三郎君は私の2年後輩でしたが、中学時代から秀才といわれており、松本高校文科から東京大学経済学部に進み、後に共同通信の論説委員長をつとめたり、東和大学や埼玉純真女子短期大学の教授などもされました。又「吉野作造」の研究をされて立派な本も出版されております。四番目が源四郎君ですが、彼の大学、同窓会を通じての御活躍、御業績は皆様よく御存知なので、ここでは割愛させていただきます。五番目は伍祐君で私は全く面識はありませんでしたが、松本高校から京都大学医学部に進まれたのに、残念ながら京都大学在学中に急逝されたそうです。六番目が孫六君で、野沢北高等学校から東京大学

文学部仏文科に進まれ、後に「アトラス伝説」で第72回直木賞を受賞されて有名な作家になっております。孫六君は私よりはるかに後輩なので面識はありませんでしたが、最近では東京での野沢中学、北高の同窓会でお会いすることがあります。

同窓会と言えば、戦後数年たつてから旧制野沢中学校から旧制松本高等学校に入學した同窓生の集まりをつくるとうとう、ついに「野中松高会」が結成されました。はからずも私がこの会長に選ばれ、毎年春、秋2回同窓生の黒沢伝樹君が経営していた池袋の八峰閣というホテルで懇親会を開催しました。毎回古き良き時代の高校生活を偲んで話がはずみ、最後はなつかしい寮歌をみんなで高唱して散会したものでした。この会には一太郎先生、武三郎君、源四郎君の3兄弟は毎回必ず出席されて、会を盛り上げて下さいました。

一太郎先生は必ずしも雄弁ではありませんでした。が、低音で静かな語り口で政界の表や裏の話をして下さいましたので、大変参考になりました。武三郎君はみんなの話をニコニコしながら聞いていたというタイプでしたが、時にはジャーナリストらしい鋭い警句を発することがあり、大変感服したことがあります。何と言ってもこの会の雰囲気をもっと楽しくしてくれたいのは源四郎君で、あの軽妙な洒落な話術はみんなを魅了したものでした。私達仲間の間では、源四郎君が千葉県知事に立候補したらきつと当選し、立派な業績を残しただろうと話合つたこともあります。

私は一太郎先生には何かとよく眼をかけて頂きまして、武三郎君、源四郎君とは同年代だったので、長い間特に親しくおつきあいさせて頂きました。最後に一太郎先生の御趣味だった短歌のことについて一言ふれておきたいと思っております。

一太郎先生は、昭和の初期から吉植庄亮先生に師事して短歌をつくり始め、歌集を数冊発行されておりました。昭和53年の宮中の「歌会始」には召人となり、そのときのお題「母」に詠進された歌（応制歌というのだそうです）があります。次のような応制歌です。「母まさは大内山に初春のけふの節会のみし告げ麻之乎」（末尾の三字「麻

之乎」は万葉がなによるべく指定されているそうです。これをきっかけに、佐久総合病院の若月俊一院長をはじめ、私達同窓生、先生を尊敬している多くの方々などの御協力で、平成4年10月4日に、先生の菩提寺「真禪寺」の境内に大変立派なこの応制歌の歌碑が建立されました。

以上のように源四郎君の御兄弟のことについて書いて参りましたが、92歳8ヶ月になる私の長い人生の中で、何かにつけて大変影響を受けた3兄弟であったことはまちがいありません。一太郎先生も源四郎君ももうこの世にはおりませんが、私も寄る年波なのでそう遠くないうちにあの世とやらへ参ると思っております。その折には又お会いして楽しく語り合うことができると思っております。

52会告

次回52会総会開催について
平成22年(2010)7月18日(日)
〔海の日〕の前日
東京での開催を
予定しています。

52会幹事会

同窓会員著書の紹介

ミッシェル・ド・ロルジュリル 著
浜崎智仁 訳

「コレステロール 嘘とプロバガンダ」

和漢医薬 浜崎智仁(富山大・昭46)
篠原出版社
二、四一五円(税込)



とんでもない金融商品で世界中がひっくり返つたと、商品売ること倫理性を求めなくなったときの空恐ろしさを我々はいやというほど知った。似たようなデタラメが、薬で起きない誰が断言できるだろう。高コレステロールで医者通いをすれば、必ずスタチン類を処方される。スタチンを服用している人たちが、この本を最後まで読めば、きつと吐きけがしてくるだろう。知らなかった不気味な副作用に気づくかも知れない。

そもそも、コレステロールは本当に危険なのだろうか。本書にもあるように、医学上の問題で何十年も論争的になつてきているものは、コレステロール問題しかない。なぜこんな簡単な問題が、決着しないのだろう。どちらかが正しく、どちらかが間違っているに違いない。論争が果てしなく続く理由は、本来なら負ける側に膨大な利益があるからに違いない。それこそ、まさにこの本のタイトルを可能にしている。

訳者は2000年前後から、コレステロールは敵ではないと主張し始めた。それまでは、この本に出てくるスタチンの販売促進のために、製薬会社のお先棒を担いだ人間である。外来では多くの高コレステロール血症患者にスタチンを投与している人間である(現在では桁違いに減つた)。ところが、10年ほど前、当時名古屋市立大学薬学部奥山治美教授から、家族性高コレステロール血症を除けば、高コレステロールは問題ではない、と指摘され、自分の考えが間違っていたのに気づいた。訳者は今では、日本動脈硬化学会の出した、高脂血症に関するガイドラインのデタラメさ加減をいろいろ発表している(脂質栄養学2009年18巻)。というわけで、コレステロール理論のまやかさは、それなりに知っているつもりであつた。しかし、昨年この本を読んだ。自分がかんがつたか、思い知らされた。日本では有効でなくても、欧米ではスタチンはそれなりに有効なのだ、この本を読むまでは考えていたのだ。この本を読み、自分の失態に気づいた。医学界最高峰の雑誌に出てくる論文に完全にだまされていた!

「訳者あとがき」より抜粋

小沢昭司 著

「医説 徒然草」

朝日新聞社
一、四三円(税別)

小沢昭司(昭27)

現代の多くの「徒然草」の研究者は、各章段を通して底流にある兼好の無常不定を基盤とした人生観や、自然、恋愛への彼の美学、その他多くの事象について言及しているが、かなりの章段で兼好が関心を示している医学、薬学や性の問題について言及しているものは少ない。そこで誰もがやっていない新しいことをしてみよう、そんな子供じみた思いから兼好が言及した医・薬について書き始めたのである。本書は、私が医者の視点から、思ったこと、感じたことを書き留めたものである。兼好の語るところは、現代のわれわれから見れば、首肯しかねる点もあるが、なお、現代にも通じる多くの示唆を含んでいる。

(はじめにより抜粋)

栃木県るのほな会 平成21年 第6号

とちぎ るのほな 第6号

◆◆◆◆◆ 目 次 ◆◆◆◆◆

- ◆ 公民挨拶**
- るのほな会長退任によせて…………… 柴崎 晃 (前28号) …… 1
- ◆ 総 会**
- 平成21年度 栃木県るのほな会 総会プログラム…………… 2
- 平成20年 会計報告…………… 3
- 総会アルバム…………… 4
- 全国るのほな会長 ご挨拶…………… 伊藤 晴夫 先生 (前39号) …… 10
- ◆ 関連病院だより**
- 上都賀総合病院…………… 村上 彰 (前45号) …… 11
- 塩谷総合病院…………… 奥山 和明 (前45号) …… 12
- とちの木病院…………… 松岡 明 (前52号) …… 13
- 福田記念病院…………… 福田 武平 (前42号) …… 14
- ◆ エッセイ**
- 全国るのほな同窓会の活動報告と感想…………… 大井 朝夫 (前35号) …… 16
- 回顧…………… 島田 光弘 (前25号) …… 19
- るのほな会名義会員に推薦されて…………… 坂田 早苗 (前34号) …… 20
- 全人医学(holistic medicine)についての私見…………… 相田 康俊 (前32号) …… 21
- イタリヤ旅行 (表紙絵にかえて)…………… 柴崎 晃 (前28号) …… 23
- ◆ るのほな俳句**
- 藤樹…………… 水沼 三郎 (前23号) …… 27
- 空舞の時…………… 布川 武司 (前32号) …… 28
- 鶴賀の朝…………… 上山謙太郎 (前33号) …… 29
- ◆ るのほな総会より**
- 静岡るのほな会 会長 ご挨拶…………… 佐藤 通 (前35号) …… 30
- 東京るのほな会 会長 ご挨拶…………… 渡藤 謙雄 (前43号) …… 30
- 茨城るのほな会 会長(代) ご挨拶…………… 渡上 隆 (前36号) …… 31
- 栃木県るのほな会 会長に就任して…………… 坂田 早苗 (前34号) …… 32
- 宇都宮るのほな会 会長就任にあたって…………… 柴崎 晃 (前44号) …… 33
- ◆ 編後記**…………… 34
- ◆ 会員名簿**…………… 35
- ◆ 栃木県るのほな会 会則**…………… 38

発行：元栃木県医師会 会費 片山 一郎

とちぎ るのほな

平成21年 第6号



栃木県るのほな会

千葉大学医学部るのほな同窓会栃木県支部

神奈川県るのほな会 平成21年 20号

目 次

- るのほなかながわ20号発刊に当たって……………富田 裕 …… 1
- 巻頭言**
- るのほな会に寄せて…………… 戸賀崎義治 …… 2
- 総会**
- ◆平成20年度総会開催報告…………… 3
- ◆平成19年度神奈川県るのほな会庶務報告…………… 4
- ◆平成19年度決算報告・平成20年度予算案…………… 4
- 病院めぐり**
- 神奈川県立がんセンター……………大崎逸朗 …… 6
- 地区だより**
- 横須賀地区だより…………… 青木太三郎 …… 8
- 他地区るのほな会より**
- 雑感…………… 芝崎 晃 …… 10
- 身辺雑記**
- 鈴生りの連絡道路 (第一学生寮の思い出)…………… 松本龍二 …… 12
- 同窓交歓…………… 土佐純一 …… 16
- 論語註解 横浜労災病院泌尿器科紹介編…………… 好信楽荘住人 山口邦雄 …… 18
- 鮎の友釣り…………… 渡辺義郎 …… 20
- 初めまして……………そして……………
- よろしくお願いたします……………橋本 敏 …… 22
- NEW ●新規開業**
- 平出 明…………… 23
- 亥鼻祭**
- 7年目を迎えて……………池内博紀 …… 24
- 編集後記**…………… 25

るのほな・かながわ(平成21年7月11日)

るのほなかながわ



神奈川県るのほな会・千葉大学るのほな同窓会神奈川県支部

平成21年 20号

安徽医科大学代表団の医学部表敬訪問

1926年以来的の交流

有朋自遠方来

医学部国際交流委員長 木村定雄

7月14日(火)に中国上海の近くの安徽省合肥市にある安徽医科大学の教授4名一行が千葉大学との国際交流の申し込みを含めて表敬訪問されました。安徽省は三国志に出てくる曹操の生まれた所で有名ですが、

現在の安徽医科大学は存在していないと言ってもいいほどであり、このような歴史があるなら、千葉大学医学部との交流をぜひとも持ちたいというものでした。

7月14日は午前中に西千葉の齋藤康学長を、午後には鼻の中谷晴昭医学研究院長を表敬訪問されました。お互いの大学・医学部の現在の概要を説明しあいました。現在の安徽医科大学は、医学部、看護学部、歯学部、薬学部を併せ持つ医療系の大きな総合大学でした。齋藤学長・野波健蔵副学長および中谷研究院長・張ヶ谷健一医学薬学

長官である囚獄(俗に牢屋奉行)を世襲した。町奉行支配。江戸時代に関する通俗書は勿論、矯正史に関する専門書でも不正解な記述がみられる。初代の帯刀が徳川家康に仕えた当初は、家康の親衛隊である大番士を勤めていた。俗にいう「旗本」である。

も、役職によつては目見以下の扱いになることがあった。(4)役上下 服装規定である。(5)拝領屋敷 小伝馬町牢屋敷内に38坪余の役宅と、小伝馬町一丁目北側に369坪、米澤町二丁目西角に609坪余の拝領屋敷をもつていた。(6)支配 時代によって変遷はあるが、「石出帯刀組」と呼ばれ、同心58名、下男(最下級の直参)38名の計96名を配下に抱えていた。

(1845)に著した『吏徴』には、「役扶持10人扶持」と記載されている。当時の石出帯刀は家禄300俵の他に10人扶持が下されていたが、これは役扶持ではなくて、見習時代を併せて半世紀にわたつて囚獄を勤めたことに対する精勤賞というべきもので、一代限りである。

初代校長である郭碯元先生(大正11年1922年卒)を始めとし、上海東南医科大学創設に集った約58名の医師の内、28名が千葉医科大学の出身者でした。当時は千葉医学専門学校から千葉医科大学に昇格した頃(大正12年1923年)にあたりますが、松本高三郎学長が上海東南医科大学に創設時の支援として顕微鏡や診察台などを寄贈したそうです。1907年、後15年間は清朝政府の



は、医学部、看護学部、歯学部、薬学部を併せ持つ医療系の大きな総合大学でした。齋藤学長・野波健蔵副学長および中谷研究院長・張ヶ谷健一医学薬学

に際して、論語の中にある「朋あり遠方より来たる、また樂しからずや」という言葉が本当に思いだされました。その昔、91年敵味方なく傷病者を救うために赤十字隊を組織して救援に駆けつけようとする中国からの留学生を支援したこと(辛亥革命記念碑)、また、異国の上海東南医科大学の創設時に卒業生を支援しようとしたことなど、

「系図門地正敷家也」とある。(2)禄高(家禄)300俵。いわゆる「切米取り」で、領地を持つ知行取りの300石に相当する。しかしその内実は、3千石以上5千石程の生活振りであったという証言が残されている。(3)目見以下 目見以上イコール「旗本」ではない。本来目見以上の家で

よくある間違いに「役扶持10人扶持」という記述がある。囚獄は持高で勤める役職であるから、役扶持などつくはずもない。町奉行に提出する『石出帯刀組明細書上』、『武鑑』にも300俵とだけ記載されている。幕府の右筆、向山誠齋が幕府の役職について弘化2年

初代の石出帯刀が当初所属した大番組は、大番頭・大番組頭・大番士で編成されていた。この他に大番頭には、与力10騎・同心20名が付属していた。大番組における大番士と与力は明かに異なる。一庁の長官である囚獄と、与力が同じ格式ではあり得ないのである。

雑文雑談

石出帯刀の話

石出猛史(昭52)

出席者左から 前列・・沈玉先、*沈继龙、中谷晴昭、*翟志敏 後列・・朱偉東、清水富雄、見城悌治、*葛建军、木村定雄、張ヶ谷健一、田辺政裕 (*印は訪問教授)

平成21年度第1回常任理事会議事要旨抜粋

日時 平成21年4月22日

(水) 午後6時～8時

場所 東京ステーション
コンファレンス605
A室

出席者 伊藤晴夫(会長)、
大井利夫(副会
長)、寺澤捷年(副
会長)、清陽高穂
(副会長)、秋葉哲
生(会計監事)、
田中光(会計監
事)、青木謙、伊
藤達雄、大濱博
利、加部恒雄、早
乙女勇、佐藤通、
白澤浩、鈴木信
夫、田邊政裕、角
田隆文、中田義隆
(佐藤忠夫代理)、
吉川広和、吉原俊
雄

以下の会員を名誉会員として推薦することが承認された。
2. 平成20年度決算について

1. 決算報告
白澤理事より資料に基づき説明があり、平成20年度は、支出節約により同窓会基金および東医体準備金への積立を再開した旨の報告があり、決算案が承認された。

2. 監査報告
田中光監事、秋葉哲生監事より監査の結果、適正である旨報告された。

3. 平成21年度事業計画について
白澤理事より、資料に基づき説明があり、研修医制度見直しの現況から、研修病院・大学診療科紹介の会

年度は行わないが、会報発行、各地のものはな会への支援、各地域のものはな会(会員)・本部間の交流、留学生奨学金、研究・教育助成、メディアカールオンライン事業、のものはな同窓会館設立(135周年記念)事業等については引き続き継続する計画が承認された。また、支部会報のホームページ掲載

伊藤晴夫会長の挨拶の後、同会長が議長となって議事が進められた。
1. 名誉会員の推薦について
白澤浩理事(瀧口正樹担当理事代理)より、平成21年度名誉会員推薦資料に基づき説明があり、支部推薦

載案が出され、検討することとなった。
4. 平成21年度予算案について
白澤理事より、資料に基づき、従来一般寄付金(法人)としていた項目を事業収入(集金事務費雑収)としたこと、法人税を見越し支出節約を盛り込んだ予算案とした旨の説明があり、承認された。
5. のものはな同窓会賞選考結果について
白澤理事より、第14回功労賞に、西澤護氏(昭31)、學術賞に木野智重氏(昭60)、清水直樹氏(平2)が選考委員会より候補者として推薦された旨の報告があり、承認された。
6. 総会議題等について
清陽高穂理事より、平成21年度のものはな同窓会総会の議題等の案が報告され、承認された。
7. その他
大井利夫副会長より、平成19年度の法人税関係法令の改正への対応についてのコメントがあり、検討することとした。

報告事項
1. 会報発行予定について
白澤理事より、次号は、5月18日に発送予定であることが報告された。

2. その他
鈴木信夫理事より、オンライン会報の今後の計画について報告があった。

懇談事項
1. 新のものはな同窓会館設立事業について
寺澤捷年財務委員長より、募金状況の報告と次回発送予定の同窓会報に募金(第二回)のお願いを同封する旨の報告があった。
2. その他
田邊裕政理事より、記念講堂の改修案についての報告があった。

② 監査報告
田中光、秋葉哲生両監事より監査報告があり、決算案が承認された。
(4) 平成21年度事業計画について
白澤理事より、会報発行、のものはな同窓会ホームページの充実、各地域のものはな会(会員)と本部間との交流、留学生奨学金授与、研究教育助成、メディアカールオンライン事業、新のものはな同窓会館設立(135周年記念)事業等について説明があり、承認された。
(5) 平成21年度予算案について
同理事より、収入の部に於いては、20年度まで一般寄付金(法人)として計上していた医師賠償保険事業による収益を集金事務費雑収入として項目を立てること、各項目の予算額は例年通りの旨、また、支出の部については、理事会費、会報発行、IT・広報関連事業等前年度と相違している項目について説明があった。また、基金、東医体準備金の積立は計上しないことなどが説明され、予算案が承認された。
(6) 役員選出について(平成21、22年度)

① 決算報告
白澤浩理事より、決算内容についての説明があった。収入については、会費等の収入が若干減少したが、名簿発行に伴う雑収入があり、予算より約150万円増であった。支出については、会報発行経費を節約できた。これらにより生じた余剰金を基金および東医体準備金として積み立て、さらに約500万円を21年度に繰り越した、等の報告がなされた。

① 会長、副会長、参与、監事
瀧口理事より、現役員の任期(2年)満了に伴う新役員の選出について会則第8、9、14条に則り説明があり、会長の伊藤晴夫氏、副会長の大井利夫・寺澤捷年・清陽高穂各氏、参与の小幡裕、税所宏光各氏、会計監事の田中光・秋葉哲生各氏の再任が承認された。
② 理事
同理事より会則第12条に則り説明があり、理事選出が承認された。
③ 常任理事
同理事より会則第12条に則り説明があり、総会を理事会併催としたうえで、常任理事選出が承認された。
④ 評議員
同理事より会則第15条に則り説明があり、評議員選出が承認された。
理事の追加選任について、会則第12条に則り各支部に推薦依頼し、常任理事会で決定することとなった。また評議員については、評議員不在の卒業年があるため、該当クラスに推薦依頼し、常任理事会で決定することとなった。
(7) 新のものはな同窓会館設立事業について(報告事項、懇談事項)

平成21年度のものはな同窓会総会議事要旨

日時 平成21年6月20日

(土) 16時～
場所 銀座アスターお茶の水資館
(出席者52名、委任状556名)

吉原俊雄理事の司会、清陽高穂副会長の辞により開会となり、まず物故者(84名)に黙祷を捧げた。伊藤晴夫会長より、同窓会の発展を願う挨拶があった。

議事
(1) 名誉会員の推薦について
瀧口正樹理事より、内規に基づき推荐された8名について説明があり、承認された。(7面に掲載)

(2) 年次活動について(報告事項)
① 庶務部報告
同理事より、各会議開催や各支部との交流の内容に

り、募金状況の報告と次回発送予定の同窓会報に募金(第二回)のお願いを同封する旨の報告があった。
2. その他
田邊裕政理事より、記念講堂の改修案についての報告があった。

② 事業部報告
同理事より、研修病院・大学診療科を紹介する会の開催、同窓会賞および学外研究助成の決定、のものはな同窓会名簿の発行、年3回の会報発行等について報告された。
(3) 平成20年度決算について
白澤浩理事より、決算内容についての説明があった。収入については、会費等の収入が若干減少したが、名簿発行に伴う雑収入があり、予算より約150万円増であった。支出については、会報発行経費を節約できた。これらにより生じた余剰金を基金および東医体準備金として積み立て、さらに約500万円を21年度に繰り越した、等の報告がなされた。

③ 常任理事
同理事より会則第12条に則り説明があり、理事選出が承認された。
④ 評議員
同理事より会則第15条に則り説明があり、評議員選出が承認された。
理事の追加選任について、会則第12条に則り各支部に推薦依頼し、常任理事会で決定することとなった。また評議員については、評議員不在の卒業年があるため、該当クラスに推薦依頼し、常任理事会で決定することとなった。
(7) 新のものはな同窓会館設立事業について(報告事項、懇談事項)

住所変更・勤務先変更された方は同窓会事務局までご連絡ください。

個人情報保護法のため、異動先が把握しにくくなっております。

ご協力くださいますようお願いいたします。

事務局

FAX : 043-202-3753

E-mail : info@inohana.jp

田邊政裕理事より建物・設備整備委員会で検討された会館の建設計画について説明があった。募金開始時の目的である①学生がサークル活動できる施設、②300人収容のホール、③医学部の歴史に関する展示室、④同窓会等の事務室、等の施設のうち、新たに附属病院に整備予定となった②を除いた計画が提示報告された。

この報告に対して、大学全体の動向を考慮し医学部・薬学部・看護学部等共同の会館建設も一策である、建設のタイムテーブル作成が醸金促進につながる、建物・設備等整備委員会で検討する今後の計画を常任理事会等で協議することが望まれる、等の意見があった。

濟陽高穂副会長の辞により、閉会となった。

吉原理事の司会により、功労賞(西澤護氏)、学術賞(木野智重氏、清水直樹氏)の表彰式が行われた。伊藤会長のご挨拶に続き、表彰盾が授与された。

記念講演
伊藤会長の司会により、中谷晴昭・千葉大学大学院医学研究院長が「千葉大学医学部の現状と展望」と題して講演された。

懇親会
角田隆文理事の司会、大井利夫副会長の辞により開催された。伊藤会長の挨拶に続き、山上健次郎先生の乾杯ご発声、唐澤祥人日本医師会長の挨拶、学外研究助成者村山圭氏、名誉会員の諸氏等から挨拶を頂いた。楽しく歓談の時を過ごし、藤山嘉信理事の辞により閉会となった。

平成20年度決算報告

収入の部	款 項 目	予 算 額 (円)	決 算 額 (円)	対 予 算 額 (円)
	会 費 等	22,400,000	21,339,500	-1,060,500
	他 会 計 以 外 受 入	100,000	130,633	30,633
	寄 付 金	4,950,000	5,323,759	373,759
	雑 収 入	10,000	2,228,877	2,218,877
	(当期収入計)	27,460,000	29,022,769	1,562,769
	前年度繰越資金受入	4,570,184	4,570,184	
	収 入 合 計	32,030,184	33,592,953	1,562,769
支出の部	款 項 目 (節)	予 算 額 (円)	決 算 額 (円)	対 予 算 額 (円)
	総 務 費	10,180,000	9,016,142	1,163,858
	事 業 費	18,290,000	15,669,079	2,620,921
	法 人 税 等	1,800,000	1,859,300	-59,300
	予 備 費	1,660,184	0	1,660,184
	積 立 金	100,000	2,100,000	-2,000,000
	次 期 繰 越		4,948,432	-4,948,432
	支 出 合 計	32,030,184	33,592,953	-1,562,769

平成21年度予算

収入の部	款 項 目	平成21年度予算額 (円)	平成20年度予算額 (円)	平成20年度決算額 (円)
	会 費 等	21,400,000	22,400,000	21,339,500
	事 業 収 入	5,000,000		
	他 会 計 以 外 受 入	100,000	100,000	130,633
	寄 付 金	150,000	4,950,000	5,323,759
	雑 収 入	25,000	10,000	2,228,877
	(当期収入計)	26,675,000	27,460,000	29,022,769
	前年度繰越資金受入	4,948,432	4,570,184	4,570,184
	収 入 合 計	31,623,432	32,030,184	33,592,953
支出の部	款 項 目 (節)	平成21年度予算額 (円)	平成20年度予算額 (円)	平成20年度決算額 (円)
	総 務 費	11,370,000	10,180,000	9,016,142
	事 業 費	16,280,000	18,290,000	15,669,079
	法 人 税 等	1,300,000	1,800,000	1,859,300
	予 備 費	2,573,432	1,660,184	0
	積 立 金	100,000	100,000	2,100,000
	次 期 繰 越			4,948,432
	支 出 合 計	31,623,432	32,030,184	33,592,953

税理士 法人 千葉中央会計事務所

税務・会計、監査、税務相談

医師・歯科医師の税務申告
記帳代行、医療法人会計、公益法人会計
社会福祉法人会計等



公認会計士・税理士 手島 英男 税理士 吉野 精
公認会計士・税理士 田中 昌夫 税理士 島田 和弘
公認会計士・税理士 本橋 雄一 税理士 中井 武夫

〒260-0013 千葉市中央区中央1-2-1
<http://www.ccaf.jp>

TEL 043 (225) 1211 (代)

徹底した所員教育 (資格者・職員全員年間40時間の研修義務化)

新るのほな同窓会館設立事業募金状況

(平成21年8月15日現在)

平成21年の千葉大学医学部創立135周年を機に始めました募金につきまして、下記の方々からご協力を頂きました。

寄付納入者一覧

(敬称略)

- | | | | | |
|---|--|--|---|--|
| <p>企業・法人等</p> <ul style="list-style-type: none"> 赤星工業(株) 旭化成ファーマ(株) あすか製薬(株) アステラス製薬(株) アストラゼネカ(株) アルフレックスファーマ(株) (株)ウチダ和漢薬 栄研化学(株) エスエス製薬(株) エーザイ(株) (株)エスアールエル エルメッドエーザイ(株) 大塚製薬(株) (株)大塚製薬工場 (医)大平会嶺井第一病院 小野薬品工業(株) 科研製薬(株) 化研生薬(株) 三河川鉄千葉病院 (株)北原防災 キッセイ薬品工業(株) 杏林製薬(株) 興和(株) 協和醗酵工業(株) キリンファーマ(株) 埼玉厚生連 熊谷総合病院 グラクソ・スミスクライン(株) クラシエ製薬(株) クラシエ薬品(株) | <p>一般人</p> <ul style="list-style-type: none"> 小太郎漢方製薬(株) (株)小山商会 千葉営業所 佐藤製薬(株) サノフィ・アベンティス(株) 沢井製薬(株) (医)三愛記念病院 (医)三愛記念そが病院 参天製薬(株) (株)サンリツ (株)三和化学研究所 シェリング・プラウ(株) 塩野義製薬(株) 白鳥薬品(株) (医)みはま病院 聖隷浜松病院 聖隷佐倉市民病院 聖隷横浜病院 ゼリア新薬工業(株) 第一三共(株) 大正製薬(株) 大日本住友製薬(株) 大鵬薬品工業(株) タカイ医科工業(株) 武田バイオ開発センター(株) 武田薬品工業(株) 田辺三菱製薬(株) (株)千葉京成ホテル 千葉中央会計事務所 中外製薬(株) (株)銚子丸 (株)ツムラ 帝人ファーマ(株) テルモ(株) トリアエイヨー(株) (株)東葛幸文堂 財団法人 同仁会 東和薬品(株) 富山化学工業(株) | <ul style="list-style-type: none"> 鳥居薬品(株) ニプロファーマ(株) 日興コーポリアル証券(株) 日本イーライリリー(株) 日本化薬(株) 日本ケミファ(株) 日本新薬(株) 日本製薬(株) 日本臓器製薬(株) 日本たばこ産業(株) 日本ペーリシングヘルハイム(株) ノバルティスファーマ(株) バイエル薬品(株) 萬有製薬(株) ファイザー(株) (株)富士フィルムメディカル 扶桑薬品工業(株) プリストル・マイヤーズ(株) (株)ほてい家 ホテルグリーンタワー幕張 ホテルニューオータニ幕張 マイラン製薬(株) 丸石製薬(株) マルホ(株) (有)丸萬 (株)ミノファージェン製薬 明治製菓(株) 持田製薬(株) (株)ヤクルト (株)ヤンセンファーマ ゆげクリニック ロート製薬(株) ワイズ(株) わかもと製薬(株) | <p>医学部後援会</p> <ul style="list-style-type: none"> 浅井 俊治 新井 英雄 飯田 豊 池内 英男 和泉みどり 井上 憲二 岩花久仁子 海村 昌和 太田 昌男 緒方 一 奥山 広明 小谷 野信 片岡 清 加藤 誠 上川床総一郎 菊池 敏美 木下 富夫 熊谷 武久 黒川 道徳 後藤 喜章 小西 敏郎 酒井 雄一 佐藤 恒明 鈴木 壽郎 泉水 卓 高橋 修 竹本 勝己 田中 清七 富永 庸平 豊田 浩史 中川 康 中田 徹亮 東ヶ崎邦夫 平山 敏雄 廣瀬 俊夫 藤田 邦臣 安達 哲夫 有里 敬代 飯田 義三 石田 和弘 伊藤 龍也 井福 正博 岩村 千秋 大橋 茂 大庭 恵 岡本 弘子 小野 文雄 笠間 昭彦 勝俣 賢二 金子 浩一 川端 基彦 北爪 秀政 工藤 琢也 蔵田 昌子 小曾根卓朗 小関 洋男 小嶋 清 櫻井 茂 下平 坦 須賀 秀晃 高浦 和彦 高橋 恒雄 田島 啓二 塚田 俊行 豊田 弘 永井 玉枝 中川 洋一 名倉謙二郎 日野修一郎 広沢 邦浩 藤井 康史 堀井 宏志 | <ul style="list-style-type: none"> 細川 裕之 松岡 才二 松村 雅生 武藤大二郎 山田 雄一 与儀 実久 吉岡 雅之 与芝 真彰 和田 正英 前田 雅治 松田 一男 三田 信明 森 豊 山本 幸一 吉井 仁実 吉澤 尚嗣 若松 英彦 法医学 佐藤 彌生 神経生物学 山口 淳 発生生物学 川内 大輔 免疫発生学 救急集中治療医学 細川 裕之 仲村 将高 岩村 千秋 室山 優子 久保 武一 |
|---|--|--|---|--|



と き
その季節、
その瞬間の匂を
味わっていただくために
どうぞ、おいしい舞台へ。



お近くの店舗は当店ホームページ (<http://www.choushimaru.co.jp>) でご覧ください

全64店舗 千葉24店舗 東京24店舗 埼玉12店舗 神奈川4店舗
 年中無休 営業時間 AM11:00 ~ PM10:00 ※千葉駅前店のみ PM11:00 まで



- 医学部教職員等**
- 佐藤 彌生
 - 神経生物学
 - 山口 淳
 - 発生生物学
 - 川内 大輔
 - 免疫発生学
 - 救急集中治療医学
 - 細川 裕之
 - 仲村 将高
 - 岩村 千秋
 - 室山 優子
 - 久保 武一

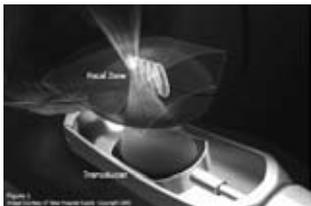
長田 浩 草間 隆	昭20 山崎 衛 平形 義人 清水 衛 井出源四郎 昭19 来仙 隆	川辺 敏 専18 竹蓋 一郎 梶山 豊 昭18 吉田 芳樹	専17 水間 正冬 下野 賢次 浦野 英夫 昭17 倉田 博夫	昭16 薬丸比呂志 昭16 田中 洋 昭15 昭15	同窓会員	千葉大医・旧助手会 馬杉 綾子 計良 和範 循環型地域医療連携システム学 久永 明人 関矢 信康 地野 充時 先端和漢診療学寄附講座 大平 善之 宮城 聡 総合診療部	細胞分子医学
土屋 與之 高野 俊男 鈴木 文男 小林 準三 君島善次郎 石谷 治彦 昭24 宮入 繁夫	宮内 盈 竹内 善康 三瓶 善夫 柿栖 米夫 梅沢 亮 専23 和田 寛	平岡 真 奈良 四郎 齊藤 嘉一 九島 璋二 上野 高次 板垣 修造 昭23 鷺田 一博	福島 溪二 新田 実男 清水 健三 石郷岡 寛 昭22 三宅 和夫	萩野 裕 佐藤 壹三 国井 光智 石原 眞 昭21 鶴澤 壽		今島 浩 専20 渡邊 昌平	近内 康夫 横地 尚
寺島東洋三 田中 直基 鈴木 直宣 佐々木宣明 木村 康 大林 泰	渡辺 兼司 橋本 眞 鈴木 東洋 斎川 俊一 大平 馨	宮崎 隆次 西堀 乙彦 多賀谷 譲 窪谷 満雄 海老原恒雄 伊東 和人	茂又 眞祐 信藤 羊一 千田喜久雄 神山 英明	本間 三郎 中島 浩二 齋藤 豊一 大磯 英雄		久保田亨一 勝呂 安	
渡部 士郎 大和 敏郎 細田 裕 土手内守人 久我 哲郎 伊藤 進 阿部 定生 昭26 渡辺 武夫	山崎 義人 宮内謙二郎 長嶋 晟 中田 秀明 竹之内 弘 嶋田 勉 神原 昌言 石毛 義治 相磯 敬明 専25 佐久間光史	池田佐嘉衛 昭25 佐藤 恒好 山口 寅三 南谷 幹夫 幡野 永由 中村 彰 土田 功一 霜島 正雄 神山 一郎 岡田 宏一 太田廣三郎 石川 哲也 伊佐 博夫 専24 福永 和雄	山本 晋吾 福山 正臣 中山 晋三 中村 精男 徳政 義和 鈴木 一郎 河野 正賢 奥野 文雄 大橋 平治 植草富二郎 石井 克巳	長澤 仁一 中島 令一 中村 和之 菱木 達明			
荒木 晃 昭29 吉田 恭二 吉田 達哉 山田 典男 森山 泰徳 本位田泰介 長谷川正博 寺島 克郎 平林 健六 鈴木 正剛 柴崎 晃 小山隆一郎 熊谷 信夫 唐木 清一 加藤 一雄 小田 博之 上野 正和 阿部田辰一 昭28 磯垣 弘	壬生倉 勝 渡辺 康正 本間 進 長崎 真義 関口 和夫 橋爪 孝男 住吉 稔 櫻井 昭司 小沢 昭利 大濱 文章 有田 博利	津村 澄雄 平川 達 昭27 阿部 忠夫 井上 幸方 小川源太郎 河目 堯介 黄田 照光 莊司 榮徳 原 恒男 武宮 三三 中野 清幸 鍋谷 欣市 三橋 慎一 渡辺 武 専27 渡辺 武 磯垣 弘	大藤 正雄 若杉幹太郎 吉田 泰徳 山下 龍二 松本 正雄 成田 光陽 武市 亨 鈴木 正巳 清水 惟義 澤田 勤也 小瀬 雅亮 窪田 靖夫 金子 敏郎 奥井 勝二 石川 佳夫	大沢 弘和 内藤 和穂 小関 芳昌			

最先端の前立腺がん治療 HIFU

高密度焦点式超音波治療法(ハイフ)

- ✓ 身体に傷がつかない
- ✓ 高齢の方でも治療が可能
- ✓ 入院期間が短い(4~5日)

高エネルギー超音波を前立腺の一点に集め、その部分のみを約90℃の高温で治療します。



早期の前立腺がんに対しての HIFU 治療の効果は手術や放射線治療とほぼ同等です。

フランスやドイツ、イギリスで約2000例、本邦でも3000例以上の治療が行なわれ、早期前立腺がんの低侵襲性(身体に傷をつけない)治療として広く認知されています。

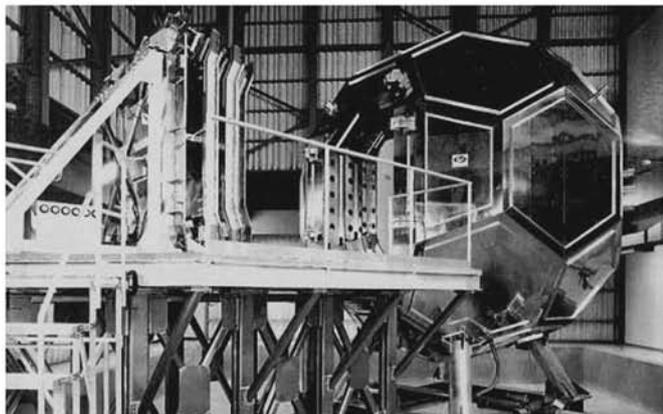
我々は HIFU による限局性前立腺癌治療を選択し、実施しています。
この治療法は保険が適用されないため、自費診療になります。

柏フォレスト腎・泌尿器クリニック 国保旭中央病院 社会保険船橋中央病院 千葉県がんセンター 成田赤十字病院 (50音順)

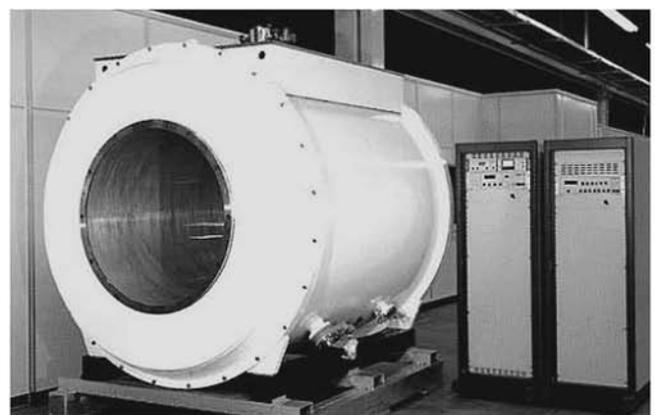
谷川 久一	高橋 英世	仙波 恒雄	三枝 一雄	大久保 恵司	有馬 道雄	昭32	山口 慶三	船橋 茂	杉山 伸子	桑原 久	海老原 一	庵原 昭一	昭31	渡辺 英詩	横田 俊二	村瀬 靖	松田 三樹雄	藤山 嘉信	中野 政雄	富田 裕	滝口 光雄	高橋 康	指田 和明	後藤 澄夫	小林 健次	片山 喬	岩井 忠志	伊谷 昭幸	新井 多喜男	浅見 敦	昭30	羽生 富士夫	根本 幸一	富岡 清海	柴田 千葉男	佐藤 忠夫	大原 一夫
戸川 清	竹内 達	高橋 柳子	斎藤 幸洋	柏木 登	飯塚 正章		山野 元	森 碧	西原 源太郎	香田 真一	小野 清四郎	上原 すゞ子		吉原 一郎	森田 茂	南園 義一	古屋 大雄	永野 俊雄	中島 和彦	十束 支朗	高橋 宣光	清水 良平	齊藤 正道	小林 茂	貴家 昭而	大坪 雄三	伊藤 敏夫	石神 一良	浅利 行男		福島 通夫	長谷川 透	中塚 正夫	島崎 淳	佐野 迪雄	鹿山 徳男	
横山 宏	田口 勝	矢野 恒多	藤田 昌宏	原 久彌	関 泰男		多田 富雄	清水 精子	坂田 早苗	倉持 正昭	遠藤 幸男	植田 伸夫	赤星 至朗	昭34	檜垣 有徳	林 國春	長崎 護	辻 陽雄	高木 學治	嶋田 俊恒	椎名 益男	花岡 建夫	小林 延年	小野 美津雄	岡本 達也	宇野 一真	磯野 可一	石川 恭子	相原 茲明	昭33	依田 勇二	村上 和	前田 昌利	福田 陽	野本 昌三	西村 忠雄	中村 常太郎
吉井 功	横山 哲夫	山本 成元	矢崎 光保	原沢 三男	野口 徹男		津金 澤督雄	高木 良章	塩川 喜之	齋藤 篤	春日 建邦	植村 研一	石川 克夫		御子 柴幸男	谷川 章子	新美 仁男	土井 偉登	武田 從信	清水 文七	石川 美智子	佐藤 俊一	近藤 洋一郎	加藤 直幸	小形 岳三郎	新井 禮子	柏戸 正英	石川 稔生	安里 洋		和田 康敬	横尾 敦夫	牧野 耕治	藤田 真	平嶋 毅	野口 照義	夏目 隆一
岩倉 弘毅	宍倉 正胤	油井 真知子	勝田 貞夫	安達 恵美子	伊藤 文雄	昭37	石山 淳一	吉野 明昭	守山 洋一	淵上 悦男	福山 隆	中島 伸之	谷口 滋	瀧澤 英夫	鈴木 光	青木 謹	今野 昭義	吉永 雅俊	栗原 稔	加藤 喜市	岡田 信道	新井 一夫	昭36	横山 孝一	村松 準	松山 迪也	堀田 とし子	永田 一郎	千野 宗之進	佐藤 通	阪 信	北方 勇輔	海保 允	岡村 隆夫	市村 公道	雨宮 浩	昭35
瀬川 襄	杉岡 昌明	斎藤 全彦	黒岩 璋光	奥山 隆保	入枝 幸三郎		伊東 治武		山崎 修道	松本 生	藤塚 立夫	中田 義隆	塚原 重雄	谷合 明	関 幸雄	鈴木 伸典	斉藤 利隆	近藤 省三	栗原 正明	加藤 昌義	小野 沢君夫	石下 峻一郎			山崎 英雄	三橋 稔	堀江 武	長谷川 鎮雄	中田 益允	鈴木 茂	榊原 秀三	草刈 隆	神田 敬	軽部 富美夫	大井 利夫	石川 喙	
原 輝彦	塚田 正男	高根 健	白井 鎮夫	重松 秀一	坂田 晃康		今野 貞夫	古謝 景春	貝田 豊郷	岡野 照美	大塚 嘉則	上原 義信	飯田 一憲	阿部 克彦	秋草 政史	若新 進	嶺井 静	三井 重義	藤本 泰正	野本 重義	中田 瑛浩	寺嶋 周	楢 哲也	玉置 襄	香西 和夫	金城 友衛	加藤 裕司	大津 敏子	木下 尚	浅野 尚	昭38	佐々木 守	吉川 正宏	柳沢 健一郎	森 豊	布施 吉弘	中山 博
深尾 立	那須 野光	千葉 胤道	鈴木 守	清水 天	崎山 裕康		小林 俊憲	角張 雄二	小野 健次郎	大森 忠昭	瓜生 東一	伊藤 晴夫	田井 千津子	鯉坂 秀明		渡部 浩二	村山 憲太	緑川 隆	三木 亮	林 直諒	成瀬 孟	鳥羽 剛	寺島 市郎	十河 正寛	佐藤 裕俊	黄田 江庭	北村 温	大和田 英美	大木 勲	安達 元明		油井 信春	山本 駿一	矢野 靖子	堀口 東司	原田 康行	

非鉄金属加工のスペシャリスト

当社ではチタンを始め、
銀、銅、ジルコニウム、ニッケル、
アルミニウム、ステンレス等、
非鉄金属を使用した様々な製品の
設計・製作を行なっております。
医療機器、器具等の共同開発を
やらせていただけませんか。



磁気シールド・ルーム



MRI (磁気共鳴画像診断装置)



赤星工業株式会社

本社 〒290-0067 千葉県市原市八幡海岸通5番地4
 事務所 電話0436-41-3366 FAX 41-3364
 工場 電話0436-41-3367 FAX 41-7870
 茂原 〒297-0122 千葉県長生郡長南町坂本387-1
 工場 電話0475-40-5566 FAX 40-5567
 営業担当: 上坂、設計担当: 笹倉
<http://www.akahoshi.co.jp>

田中 善治	高藤 武幸	佐藤 純	木村 純	田辺 恵美子	片桐 誠	江原 正明	石神 博昭	青柳 光生	昭49	山本 義一	森山 紀之	南 昌平	前川 岩夫	千見寺 徹	野口 哲夫	永山 洋子	内藤 威	千葉 次郎	高島 常夫	鈴木 洋文	須崎 勢至	佐藤 展将	高圓 博文	木村 秀樹	木内 信二	笠貫 順二	小川 富雄	梅田 透	上野 正純	猪股 弘明	岩田 泰子	浅野 誠	昭48	若山 芳彦	山森 秀夫	西野 卓	
田町 誓一	田中 眞	武井 亮二	鈴木 亮二	五月女 直樹	菊地 紀夫	金子 澄子	入江 澄子	岩津 希雄	浅井 隆善	横山 淳一	山路 正文	守田 政彦	保阪 亜莉沙	千見寺 ひろみ	広瀬 彰	内田 宏子	中村 明	徳久 剛史	高安 賢一	早乙女 勇	鈴木 晴彦	白井 厚治	小林 道生	片桐 博子	君塚 五郎	金塚 東	小川 清	大場 敏明	上村 重明	岩本 逸夫	旭 俊臣	脇坂 正美	力武 知之	檜垣 進			
松村 勉	布田 秀樹	寺崎 太郎	篠塚 正彦	坂本 薫	児島 孝行	黒崎 知道	門山 周文	小野 和則	昭50	岩崎 秀昭	森本 典子	赤嶺 正裕	昭51	山本 博憲	山岸 文雄	宮崎 文夫	野村 文夫	西山 徹	永瀬 譲史	戸塚 清一	高林 克己	篠宮 正樹	佐々木 健	齊藤 万比古	小出 義雄	河内 文雄	上村 公平	大森 景文	麻生 誠二郎	秋葉 哲生	渡辺 順子	森川 眞一	野村 恭子	西山 裕孝	土佐 純一		
八木橋 美範	藤田 順子	紅谷 朝行	中山 和久	高橋 典男	斎藤 健祐	小松 裕子	伊古田 健二	川村 健二	鏡味 勝	小野 元子	大塚 芳克	井坂 茂夫	秋田 徹	横須賀 收	山本 日出樹	森野 正明	松谷 和徳	野積 邦義	小林 けい子	中尾 照逸	土佐 寛順	隆 元英	篠遠 彰	佐伯 直勝	後藤 信昭	木村 道雄	鴨下 博	沖本 光典	入江 氏康	秋谷 徹	弓削 一郎	三上 恵只	西山 眞理子	中村 文子			
篠遠 仁	小林 繁樹	萬 伸子	石毛 俊行	昭54	五十嵐 忠彦	和田 二郎	李 元浩	吉田 英生	山口 哲生	森 照男	三瀧 忠道	中村 弘	得丸 幸夫	塚本 哲也	鈴木 文晴	石川 敏生	荻野 幸伸	上田 源次郎	安 徳純	昭53	山口 一	松前 孝幸	升田 吉雄	古川 斎	檜前 薫	中村 勉	塚田 和美	高田 俊一	鈴木 孝雄	久保田 浩一	北澄 忠雄	海宝 雄一	大迫 政智	奥野 妙子	昭52	山本 和夫	
下条 直樹	近藤 福雄	小林 文夫	今関 英次	伊澤 英次	渡邊 正治	若林 俊雄	昭57	湯山 琢夫	松村 千恵子	堀内 啓	福井 博行	馬場 章	永寫 薫	中島 一彰	武内 重康	瀧口 正樹	清水 俊行	座間 秀一	加藤 邦彦	伊藤 博	足立 武則	昭56	羅 智靖	前田 勝久	水見 寿治	蓮沼 桂司	野田 和男	永井 将道	田中 篤	神崎 哲人	有我 隆光	昭55	吉田 弘道	福田 幾夫	中村 眞人	田川 雅敏	鈴木 良一
丹沢 秀樹	龍野 一郎	白澤 真彦	下山 功夫	大嶺 直路	岩井 直路	吉川 正治	三浦 正義	松村 竜太郎	福武 敏夫	松本 俊一	長谷川 潔	中村 広志	友利 秀憲	道永 麻里	鈴木 裕子	繁田 美香	川副 泰成	岡 陽一	伊藤 隆	宮崎 三忠	藤田 京子	水見 尚武	橋本 通	長島 俊男	柴橋 博之	長 雄一	渡辺 恒家	宮本 恒彦	林 北見	巽 浩一郎	高野 正一						

人をつつみこむ、コクーニング・コンセプト。

The New **E-Class** 登場。



Mercedes-Benz

E300	¥7,300,000
E300 AVANTGARDE	¥7,800,000
E350 AVANTGARDE	¥8,500,000
E550 AVANTGARDE	¥10,800,000

メルセデス・ベンツ正規販売店
株式会社ヤナセ 稲毛支店
 〒261-0005 千葉県美浜区稲毛海岸2-1-89
TEL.043-242-5241



表示の価格は消費税を含む車両本体価格です。付属品価格及び税金(消費税を除く)、保険料、登録に伴う諸費用は含まれておりません。リサイクル料金が別途必要となります。価格は予告無く変更することがあります。表示の価格は2009年7月現在の価格です。

goodnewdays
ヤナセ
 YANASE INTERNET <http://www.yanase.co.jp>

安達昭吉 61 智江 薫	師尾隆雄 保元明彦	並木隆雄 森嶋友一	豊根知明 堂垂伸治	鈴木昌彦 田邊信宏	窪田徳幸 坂井誠一	菊野薫 北崎等	五十嵐裕章 佐藤典子	阿部恭久 安藤聡	昭60 持田晃 渡辺和義	光永伸一郎 村井尚之	星野育男 松原久裕	西島由美 藤本肇	露口利夫 中川宏治	高梨一紀 高橋弦	幸田圭史 高石聡	奥脇治郎 小野崎郁史	岸雅子 岡本弦	市川智彦 伊豫雅臣	赤倉功一郎 磯野史朗	昭59 宮副一郎 森田昌男	深沢毅 丸山浩	西村元伸 日野剛	田中泰弘 豊崎哲也	滝口裕一 田島和幸	品田良之 高木一也	近藤克則 平井真紀子	亀山伸吉 今田進	石川信泰 加藤雄一	昭58 山西友典 和久真一	守月理 山口卓秀	幡野雅彦 古川敬芳	角田隆文 中村清吾
川名秀忠	大淵文彦	石川平2 皆川真規	花澤豊行	田垣内祐吾	関根郁夫	真田昌彦	金民世	植田健	平元	丸手幸太郎	仲野公一	白井よんえ	小松尚也	黒須克志	柿沼由彦	内田佳孝	青木俊郎	昭63 安原晃一	佐藤さゆり	田島康夫	佐々木一	朝比奈真由美	江畑龍樹	青江知彦	昭62 渡辺啓治	村松俊範	古谷雄三	萩原雅司	高谷美成	佐藤晴彦	菊地浩之	加藤直也
五月女隆	岡本和久	石和田稔彦	南野真名	中島文毅	高瀬完	須関孝久	佐粧周一	菊池周一	渡辺絵里	三木隆司	松井芳文	中世古知昭	佐藤正俊	小林欣夫	笠原靖紀	宇野隆	石川輝彦	松江弘之	中馬直秀	佐藤直秀	小山秀彦	大曾根義輝	坂本明美	結城崇夫	松永保	林偉明	西村美樹	沢田貴志	木村直弘	金田庸一		
丸田哲郎	高森尉之	諏訪園靖	河野世章	門野源一郎	小高謙一	大島精司	平6 増田真一	福田和司	徳永進	関谷武司	坂尾誠一郎	太田詔	平5 吉田克彦	谷嶋隆之	三橋修	樋口佳則	小宮眞	遠藤恒宏	石井徹	平4 三池聡	土井茂治	二村静子	福山郁修	清水公一	小島博之	草塩公彦	市川千秋	早川睦	平3 丸山紀史	中川晃一	鈴木洋人	佐藤宏
清水怜	上野高尚	平14 李泓	平13 藤尾純子	榎名直文	椎名明大	長谷川宏美	平12 矢野浩二朗	宮本牧	西村基	岡本明子	平11 伊藤彰一	藤井朋子	窪田真理子	窪田伸矢	平10 河野千代子	沼田理	富田美佳	平9 和田曉彦	豊田玲子	川名有紀子	井上博	浅井利大	平8 宮内秀行	細井郁芳	橋本光宏	服部功太郎	武田真一	木原真紀	金子透子	平7 神作憲司		
半田聡	嶋謙一郎			野口美香	立石順久	幸部吉郎	吉住博明	森有紀	所知加子	木下香		溝口雅子	照井慶太	愛波淳子	星山琇	河村治清		豊田智彦	千葉哲博	岡田尚子	天野佳子	村田勝宏	前田仁士	東守洋	松井由紀子	野村知弘	竹内男					

Major League Baseball trademarks and copyrights are used with permission of Major League Baseball Properties, Inc.

日本力。世界力。

日興コーディアル証券

千葉支店

〒260-0015 千葉市中央区富士見2-10-1 (中央公園前)

043-225-1141

るのほな同窓会賞受賞候補者応募要項

第十五回(二〇一〇年度)るのほな同窓会賞の受賞候補者を左記により募集致します。

一、受賞対象者

①学術賞 本会員で、医学研究あるいは医療活動の顕著な業績により、学術的あるいは社会的に高い貢献をした個人またはグループ。特に学外の教育研究診療機関に居られる方と、学内では学位取得後の層からの応募を歓迎いたします。

二、表彰

①学術賞 (三件以内) 盾および副賞(総額二百万円程度)を贈呈します。

②功労賞 (三件以内) 盾および薄謝を贈呈します。

三、応募方法

所定の申請用紙により、二〇〇九年十二月一日から二〇一〇年一月三十一日までの間に申請して下さい。

四、受賞者の決定

選考委員、常任理事会の議を経て、会長が行います。

五、問い合わせおよび申請用紙請求先

千葉大学医学部内 るのほな同窓会事務局
申請用紙は同窓会ホームページよりダウンロードすることが出来ます。

お
く
や
み

- | | |
|-------------|----------------|
| 橋 馨 (東京専昭5) | 山口 順 (日本大昭23) |
| 大木 誠止 (昭15) | 阿部 浩次 (昭24) |
| 森島 猪二 (昭17) | 大林 泰 (昭24) |
| 山崎 康弘 (専18) | 藤本 知明 (昭24) |
| 浅野 暉 (専19) | 市川 芳郎 (専25) |
| 佐々木芳岡 (専19) | 香月 三郎 (専25) |
| 小川 良之 (専20) | 仙波 正義 (専25) |
| 中山 暢夫 (昭21) | 古川金次郎 (昭27) |
| 八村 正夫 (昭21) | 宮川 昭平 (昭27) |
| 三宅 和夫 (昭21) | 山田 浩一 (昭28) |
| 渡辺 俊夫 (昭21) | 池上 晴介 (昭29) |
| 田中 実 (昭22) | 畑仲 正彦 (昭29) |
| 石川 洵 (昭23) | 高室昌一郎 (昭30) |
| | 田邊 正義 (昭33) |
| | 原沢寿三男 (昭34) |
| | 稲葉 和也 (昭36) |
| | 國安 芳夫 (昭36) |
| | 藤田 榮一 (東慶大昭37) |
| | 山本 善捷 (昭40) |
| | 中川 利男 (昭42) |
| | 針原 幸男 (昭48) |
| | 橋本 隆裕 (寛莫大昭56) |
| | 寺師 裕彦 (昭59) |
| | 高橋 則夫 (平元) |

人事異動

教授昇任

細胞治療学

横手幸太郎 (昭63) (同講師より)

講師

放射線医学

本折 健 (平5)

(附属病院同助教より)

歯科・顎・口腔外科

小河原克則 (九州歯大平5)

(同助教より)

医学教育研究室

伊藤 彰一 (平10)

(神経内科学助教より)

~るのほな美術展案内~

2009年 第34回

るのほな美術展

—千葉大学医学部OBによる美術展—

10月5日(月)~11日(日)

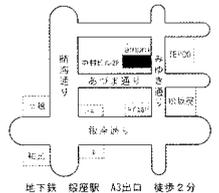
AM11:00~PM6:30 最終日4時

初秋の候、益々御清栄のこととお慶び申し上げます。例年通り下記の会場で、第34回展を開催いたします。ご多用中恐縮ながら何卒ご高覧賜りたくご案内申し上げます。

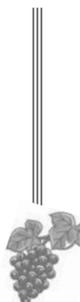
懇親会 10月10日(土)午後2時 会場にて

銀座 ひまわり ギャラリー向日葵

〒104-0061 東京都中央区銀座5-9-13 中村ビル2F
TEL 会場 03-3572-0830 事務所 03-3573-1680



編集後記



初秋の候、るのほな同窓会の皆様には、いかがお過ごしでしょうか。ここに、るのほな同窓会報第152号をお届けいたします。本号では、さる6月20日に催された平成21年度るのほな同窓会のご報告と、同会における伊藤晴夫先生の会長再任のご挨拶、そして中谷晴昭医学研究院長の特別講演を1、2面に掲載させて頂いたいただきました。また、今春、教授・院長へご就任された兵頭明夫先生、雄賀多聡先生、高原善治先生、寺井勝先生、遠藤弘良先生、横手幸太郎先生の就任挨拶、るのほな同窓会賞を受賞された西澤護先生、木野智重先生、清水直樹先生の受賞のご挨拶を掲載しております。各地るのほな

会だよりとして、八千代るのほな会、江戸川るのほな会の報告、クラス会として六葉会(専24)、八千会(専26)、爾久会(昭29)、るのほな37会(昭37)、三旧会(昭39)、卒後30周年記念会(昭54)の報告を紹介しました。同窓の先輩方が活躍される病院(千葉市立青葉病院(高橋永裕先生)、成田赤十字病院(柳沢孝夫先生)の研修プログラム紹介は、本号で3回目となり定着してまいりました。若い同窓生に対する進路を決める上での貴重な情報となることを期待しております、今後ともご協力のほどお願い申し上げます。将来のるのほな同窓生である医学部6年生の古賀俊輔君、茂田啓介君には交換留学体験記を

寄稿いただきました。将来は是非、世界を相手に活躍して欲しいものです。学内情報としては、最近、社会的関心を集めているAi(オートプシイイメージン)を取り上げ、附属病院放射線部の山本正二講師に千葉大での現状について寄稿いただきました。そして、惜しまれながら鬼籍に入られた故三宅和夫先生と故井出源四郎先生への追悼文を佐藤忠夫先生、水間正冬先生よりご寄稿いただきました。重ねてご冥福をお祈り申し上げます。最後に、皆様の益々のご活躍とご健勝を祈念いたしまして、編集後記とさせていただきます。吉野一郎(九州大昭62)